

昭和 61 年 度

学 生 募 集 要 項

(付 大 学 案 内)

金 沢 大 学

金 沢 大 学 募 集 要 求 書

出 願 資 格

員 入 集 募

目 次

学 生 募 集 要 項

募 集 人 員	2
出 願 資 格	3
入学者選抜方法	3
Ⅰ 第 2 次 試 験	4
1. 学力検査実施教科・科目	4
2. 実 技 検 査	6
3. 配 点	10
4. 試験期日及び試験時間割	12
5. 試 験 場	13
6. 健 康 診 断	14
7. 出 願 期 間	15
8. 出 願 手 続	15
9. 合 格 者 発 表	17
10. 注 意 事 項	17
Ⅱ 推 薦 入 学	18
教 育 学 部	18
経 済 学 部	20
Ⅲ 外国人特別学生（私費外国人留学生）の入学者選抜	22
入学志願票等記入上の注意	23

金 沢 大 学 案 内

概 要	27
教養部及び学部紹介	28
学 生 生 活	48
就 職 状 況	50
受験者の宿泊	51

出 願 用 紙

- ① 入学志願票、志願コード票、写真票、受験票用紙
- ② 検定料納付用紙 ③ 健康診断書用紙
- ④ あて名票用紙
- ⑤ 教育学部（一部の課程）用紙
（写真票、選択系列・曲目届、選択種目届）
- ⑥ 封 筒（2種）

学 生 募 集 要 項

募 集 人 員

学 部	学 科 ・ 課 程	募 集 人 員	摘 要
文 学 部	行 動 科 学 科	40	135
	史 学 科	35	
	文 学 科	60	
教 育 学 部	小 学 校 教 員 養 成 課 程	140	・ 中学校教員養成課程及び養護学校教員養成課程中学部の括弧書きは、専攻教科を示す。
	中 学 校 教 員 養 成 課 程 (国語・社会・数学・理科・英語…各約6 音楽・美術・技術・家庭…各約4 保健・職業…各約2)	50	
	高等学校教員養成課程 (保健体育)	20	
	聾 学 校 教 員 養 成 課 程	15	
	養護学校教員養成課程	15	
	小 学 部	15	
	中 学 部 (数学・美術・技術・ 家庭・保健)	5	
	言語障害児教育教員養成課程	20	
法 学 部	法 学 科	180	180
	経 済 学 科	180	
理 学 部	数 学 科	30	130
	物 理 学 科	25	
	化 学 科	35	
	生 物 学 科	20	
	地 学 科	20	
医 学 部	医 学 科	120	120
薬 学 部	薬 学 科	40	80
	製 薬 化 学 科	40	
工 学 部	土 木 建 設 工 学 科	93	・ 機械工学科及び機械工学第二学科は、カリキュラムその他についてすべて同等に取り扱われるから学科別に募集せず「機械工学系学科」として一括して募集する。 ・ 工業教員養成課程の15名は、土木建設工学科 (3名)、機械工学科 (4名)、工業化学科 (3名)、化学工学科 (2名)、電気・情報工学科 (3名) の各学科に含めて募集する。
	機 械 工 学 系 学 科 (機 械 工 学 第 二 学 科)	104	
	工 業 化 学 科	53	
	化 学 工 学 科	52	
	電 気 ・ 情 報 工 学 科	93	
	生 産 精 密 工 学 科	40	
合 計		1,555	

(注) 1. 上記募集人員について増員 (理学部20名程度, 工学部70名程度) する計画がある。昭和61年度予算の関係で現在は未確定であるが、この詳細は、政府予算案の決定後 (昭和61年1月ころ) 発表する予定である。

2. 既設の工学部「工業化学科」及び「化学工学科」を統合・改組して「物質化学工学科」とする計画がある。

関係法令の制定及び昭和61年度予算の関係で現在は未確定であるが、この詳細は、政府予算案の決定後 (昭和61年1月ころ) 追加募集要項で発表する予定である。

(統合・改組計画中の「物質化学工学科」の紹介については、47ページを参照すること。)

出 願 資 格

次のいずれかに該当し、昭和61年度大学入学者選抜共通第1次学力試験 (以下「共通第1次学力試験」という。) の全教科を受験した者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者及び昭和61年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び昭和61年3月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則第69条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び昭和61年3月31日までにこれに該当する見込みの者

入学者選抜方法

1 入学者の選抜は、共通第1次学力試験並びに本学が行う第2次試験 (学力検査, 実技検査), 調査書及び健康診断の結果を総合して行う。

第2次試験及び健康診断等については、「I第2次試験」を参照のこと。

(注) 志望する学部・学科 (課程・専攻教科) の課す教科・科目のすべてを受験しなければ第2次試験を受験したことにはならない。

2 次の学部・学科 (課程) の募集人員の一部について、推薦入学を行う。

推薦入学については、「II推薦入学」を参照のこと。

教 育 学 部	中学校教員養成課程	技術専攻	2名以内
	高等学校教員養成課程 (保健体育)		両課程合わせて5名以内
	特別教科 (保健体育) 教員養成課程		
経 済 学 部	経 済 学 科		5名以内

3 第2志望

教育学部の一部の課程及び薬学部の志願者については、次のとおり他の学科・課程を第2志望とすることができる。

① 教 育 学 部

高等学校教員養成課程 (保健体育) 及び特別教科 (保健体育) 教員養成課程の志願者は、互いに他を第2志望とすることができる。

② 薬 学 部

薬学科及び製薬化学科の志願者は、互いに他を第2志望とすることができる。

I 第 2 次 試 験
1. 学力検査実施教科・科目

学部・学科 (課程) 名 科目数等		文 学 部			教 育 学 部																															
					小学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 (小学部) 言語障害児教育教員養成課程			中学校教員養成課程 〔国語専攻〕			中学校教員養成課程 〔社会専攻〕			中学校教員養成課程 〔数学専攻〕 養護学校教員養成課程 (中学部) 〔数学専攻〕			中学校教員養成課程 〔理科, 技術専攻〕 養護学校教員養成課程 (中学部) 〔技術専攻〕			中学校教員養成課程 〔家庭専攻〕 養護学校教員養成課程 (中学部) 〔家庭専攻〕			中学校教員養成課程 〔保健, 職業専攻〕 養護学校教員養成課程 (中学部) 〔保健専攻〕			中学校教員養成課程 〔英語専攻〕			中学校教員養成課程 〔音楽専攻〕			中学校教員養成課程 〔美術専攻〕 養護学校教員養成課程 (中学部) 〔美術専攻〕			高等学校教員養成課程 (保健体育) 特別教科(保健体育) 教員養成課程	
出題教科・科目名		出題科目	受験科目数	摘要	出題科目	受験科目数	摘要	出題科目	受験科目数	摘要	出題科目	受験科目数	摘要	出題科目	受験科目数	摘要	出題科目	受験科目数	摘要	出題科目	受験科目数	摘要	出題科目	受験科目数	摘要	出題科目	受験科目数	摘要	出題科目	受験科目数	摘要					
国 語	国 語 I	◎	2		◎	2		◎	2								◎	2																		
	国 語 II	◎		◎	◎		◎								◎																					
社 会	現 代 社 会																◎	1																		
	日 本 史							○	1					○	1																					
	世 界 史							○						○																						
	地 理							○						○																						
	倫 理																																			
	政治・経済																																			
数 学	数 学 I				◎	3					◎	5		◎	5																					
	代数・幾何				◎						◎					◎																				
	基礎解析				◎						◎					◎																				
	微分・積分										◎					◎																				
	確率・統計										◎					◎																				
理 科	物 理													○	1		○	1		○	1															
	化 学												○				○			○																
	生 物												○				○			○																
	地 学												○				○			○																
外 国 語	英 語 II	○	3 又は ※ 3		○	3 又は ※ 3		○	3 又は ※ 3								○	3 又は ※ 3	◎	3																
	英 語 IIB	○			○						○				◎																					
	英 語 IIC	○			○						○				◎																					
	ド イ ツ 語	○		1	○		1	○		1	○	1																								
保健体育 芸 術	体 育(実技)				○	1																							◎							
	音楽 I(実技)				○																		◎	2				1		◎	1					
	音楽 II(実技)																																			
	美術 I(実技)				○																															
合 計		6	5又は3		8	6		6	5又は3		9	6又は4		5	5		9	6		7	2		8	4又は2		8	6		2	2		1	1		1	1

(注) 1. ◎印は必ず受験しなければならない科目、○印は選択して受験する科目を示す。各教科とも受験科目数が複数であつても同一試験時間内に解答させる。
2. 選択して受験する科目 (○印) については、出願の際に受験する科目をあらかじめ入学志願票により届け出なければならない。届け出た科目以外では受験できない。
3. 音楽実技、美術実技及び体育実技の範囲と方法については、「2. 実技検査」に示すところによる。
4. 旧教育課程による高等学校卒業生に対しては、出題において配慮する。

学部・学科 (課程) 名 科目数等 出題教科・ 科目名		法 学 部			経 済 学 部			理 学 部									医 学 部			薬 学 部			工 学 部						備 考										
								数 学 科			物 理 学 科			化 学 科									土 木 建 設 工 学 科			機 械 工 学 科													
		出題科目	受験科目数	摘要	出題科目	受験科目数	摘要	出題科目	受験科目数	摘要	出題科目	受験科目数	摘要	出題科目	受験科目数	摘要	出題科目	受験科目数	摘要	出題科目	受験科目数	摘要	出題科目	受験科目数	摘要	出題科目	受験科目数	摘要											
国 語	国 語 I	◎	2																																				
	国 語 II	◎																																					
社 会	現 代 社 会	○	1		1	※ 2																						※ 1 倫理及び政治・経済の2科目を合 わせて出題する。 ※ 2 経済学部「社会」の解答は、論述 式で1,000字以内とする。											
	日 本 史	○		○																																			
	世 界 史	○		○																																			
	地 理																																						
	倫 理	○																																					
	政治・経済	○		※1			○																																
数 学	数 学 I			○	3	数学及び外国 語の2 教科の 中から 1教科 を選択 し受験 すること。	◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎	※ 3 英語（英語II、英語IIB、英語II Cの3科目）又はドイツ語（出題 範囲は英語に準ずる。）のいずれか を選択し受験すること。											
	代 数 ・ 幾 何		○	◎				◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎			◎										
	基 礎 解 析		○	◎			5	◎	5	◎	5	◎	5	◎	5	◎	5	◎	5	◎	5	◎	5	◎	5	◎	5		◎	5									
	微 分 ・ 積 分						◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎			◎									
	確 率 ・ 統 計						◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎			◎									
理 科	物 理						○	1	◎	1	◎	2	◎	2	◎	2	◎	2	◎	1	◎	1	◎	1	◎	1	◎		1										
	化 学				○		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	生 物				○																																		
	地 学				○																																		
外 国 語	英 語 II	○	3 又は 1	※ 3	○		3 又は 1	※ 3									○	3 又は 1	※ 3	○	3 又は 1	※ 3	○	3 又は 1	※ 3	○	3 又は 1		※ 3	※ 3									
	英 語 IIB	○			○							○	○	○	○	○	○			○			○																
	英 語 IIC	○			○							○	○	○	○	○	○			○			○			○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ド イ ツ 語	○			○							○	○	○	○	○	○			○			○			○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
保健体育 芸 術	体 育 (実技)																																						
	音 楽 I (実技)																																						
	音 楽 II (実技)																																						
	美 術 I (実技)																																						
合 計		11	6又は4		10	4又は2		9	6		6	6		7	7		11	10又は8		7	7		11	9又は7		10	9又は7												

2. 実技検査

教育学部の一部の課程で実施する実技検査の範囲と方法は次のとおりである。

- (1) 小学校教員養成課程、聾学校教員養成課程、養護学校教員養成課程（小学部）及び言語障害児教育教員養成課程の志願者は、次の「音楽実技・美術実技・体育実技」のうちから、一つを選んで受験しなければならない。

① 音楽実技

弾き歌い

次の課題曲を、ピアノで伴奏しながら歌う。

ローレライ F. Silcher 近藤 朔風 訳詞

- (注) 1. 教育学部で指定した楽譜（教務係で交付）を使用すること。ただし、声域に合わない場合は、移調してもよい。

なお、指定楽譜の郵送を希望する者は、「ローレライ」と明記のうえ、返信用封筒（定形封筒で60円切手をはり付け、あて先を明記したもの）を同封のうえ、下記あてに申し込むこと。

〒920 金沢市丸の内1番1号

金沢大学教育学部教務係

2. 演奏は、暗譜でもよいし、楽譜を使用してもよい。

② 美術実技

鉛筆写生画

用具として、鉛筆、消ゴムを持参すること。

③ 体育実技

下記の3種目（A・B・C）についてそれぞれ検査する。

A. 陸上競技（短距離走・障害走のうちの一つを指定する。）

B. バレーボール

C. 基礎体力検査

- (注) 検査に適した服装及び運動靴を準備すること。

- (2) 中学校教員養成課程音楽専攻の志願者は、次表のうち、ア、イ、ウ、エのいずれか一つの系列を選び、その○印を付してある種目を受験しなければならない。

種 目 \ 系 列		ア	イ	ウ	エ
弾 き 歌 い		○	○	○	○
声 楽	(a) コールユーブンゲン	○	○	○	○
	(b) 歌 曲 A	○			
	(c) 歌 曲 B		○	○	○
	(d) 歌 曲 C	○			
器 楽	(a) ピアノ I	○		○	○
	(b) ピアノ II		○		
	(c) ピアノ III		○		
	(d) 管 楽 器			○	
	(e) 弦 楽 器				○

① 弾き歌い

次の課題曲をピアノで伴奏しながら歌う。

Heidenröslein 野ばら F. Schubert 近藤 朔風 訳詞

- (注) 1. 教育学部で指定した楽譜（教務係で交付）を使用すること。ただし、声域に合わない場合は、移調してもよい。

なお、指定楽譜の郵送を希望する者は、「野ばら」と明記のうえ、返信用封筒（定形封筒で60円切手をはり付け、あて先を明記したもの）を同封のうえ、下記あてに申し込むこと。

〒920 金沢市丸の内1番1号

金沢大学教育学部教務係

- 演奏は、暗譜でもよいし、楽譜を使用してもよい。
- 歌詞は、原語又は訳詞どちらでもよい。

② 声 楽

- (a) コールユーブンゲン 第1巻 原書番号No48～No85のうちから当日指定する。

- (b) 歌 曲 A 次の6曲のうちから任意の1曲

イタリー歌曲

- | | |
|-------------------------|---------------|
| ○ Lasciatemi morire | G. Monteverdi |
| ○ Se tu della mia morte | A. Scarlatti |

日本歌曲

- | | |
|---------|-------|
| ○ 北 秋 の | 信時 潔 |
| ○ かやの木山 | 山田 耕筈 |

ドイツ歌曲

- An Cloë W. A. Mozart
- Sonntag J. Brahms

(c) 歌 曲 B 次の6曲のうちから任意の1曲

イタリー歌曲

- Caro mio ben G. Giordano
- Nel cor più non mi sento G. Paisiello

日本歌曲

- 平 城 山 平井 康三郎
- こ の 道 山田 耕作

ドイツ歌曲

- Ich liebe dich L. v. Beethoven
- An die Musik F. Schubert

(d) 歌 曲 C

自由選択歌曲（日本歌曲も含む）を1曲

ただし、歌曲Aの6曲以外の曲で、約3分以内に歌い終わるもの。

- (注) 1. コールユーブンゲンは固定ド唱法、移動ド唱法のどちらでもよい。また、移調してもよい。
2. 歌曲A、B、Cの歌詞は、原語とする。
3. 歌曲A、B、Cにおいては、調は自由とする。
- 各自使用の調の伴奏楽譜のコピーは、出願書類と同時に提出すること。

③ 器 楽

(a) ピ ア ノ I

J. S. Bach インヴェンションより 第13番 BWV 784 イ短調

(b) ピ ア ノ II

J. S. Bach シンフォニアより 第14番 BWV 800 ロ長調

(c) ピ ア ノ III

W. A. Mozart 又は L. v. Beethoven のソナタより任意の1曲の第1楽章又は終楽章。ただし、楽章全体が緩徐なものを除く。

(d) 管 楽 器

次の楽器のうちから一つを選び、独奏曲又は練習曲より任意の1曲

- 1. フルート 2. オーボエ 3. クラリネット 4. ファゴット
- 5. トランペット 6. ホルン 7. トロンボーン 8. サキソフォン

(e) 弦 楽 器

次の楽器のうちから一つを選び、独奏曲又は練習曲より任意の1曲

- 1. ヴァイオリン 2. ヴィオラ 3. チェロ 4. コントラバス

(注) 1. 演奏は、ピアノ、管楽器、弦楽器とも繰返しを行わないこと。

2. 管楽器、弦楽器とも伴奏をつけない。

3. 管楽器、弦楽器の受験者は、演奏する曲が多楽章の場合は、そのうちから任意の楽章一つを選んで弾く。ただし、楽章全体が緩徐なものを除く。

4. 管楽器、弦楽器の受験者は、演奏する楽譜のコピーを出願書類と同時に提出すること。

5. 管楽器、弦楽器の受験者は、原則として楽器を各自持参すること。ただし、コントラバスは持参しなくてもよい。

◎ 歌曲Cは、暗譜とする。それ以外は暗譜でもよいし、楽譜を使用してもよい。

声楽、器楽とも楽譜を必要とするものは、各自持参すること。

(3) 中学校教員養成課程美術専攻及び養護学校教員養成課程（中学部）美術専攻の志願者は、次の美術実技（①，②）を受験しなければならない。

① 石膏像鉛筆デッサン

② 色彩構成

用具として、鉛筆、消ゴム、パレット又は絵具皿、図案筆、ポスターカラーを持参すること。

(4) 高等学校教員養成課程（保健体育）及び特別教科（保健体育）教員養成課程の志願者は、次の体育実技（①，②）を受験しなければならない。

① 基礎的運動能力検査（持久走を含む。）

② 運動技能検査

次の種目のうちから、一つを選んで受験すること。男女とも種目の選択は自由とする。

種 目 名
器械運動・陸上競技・柔 道・剣 道・ダンス・バスケットボール・バレーボール・ハンドボール・サッカー・ラグビー・野 球・ソフトボール・硬式テニス・軟式テニス・卓 球・バドミントン

(注) それぞれの検査に適した各自の用具、服装及び運動靴を準備すること。

ただし、剣道防具については大学で準備するが、各自のものを使用してもよい。

3. 配 点

共通第1次学力試験及び第2次試験の配点は、次のとおりである。

学 部・学 科 (課 程)		試 験 区 分	教 科 等						合 計
			国語	社会	数学	理科	外国語	実技	
文 学 部	行 動 科 学 科	1 次	200	200	200	200	200	—	1,000
		2 次	200	—	—	—	200	—	400
	史 学 科	1 次	200	300	100	100	200	—	900
		2 次	300	—	—	—	300	—	600
	文 学 科	1 次	200	200	100	100	200	—	800
		2 次	200	—	—	—	200	—	400
	小学校教員養成課程 塾学校教員養成課程 養護学校教員養成課程(小学部) 言語障害児教育教員養成課程	1 次	160	160	160	160	160	—	800
		2 次	200	—	200	—	—	200	600
	中学校教員養成課程 〔国 語〕	1 次	200	200	100	100	200	—	800
		2 次	400	—	—	—	200	—	600
教 育 学 部	中学校教員養成課程 〔社 会〕	1 次	160	160	160	160	160	—	800
		2 次	200	200	—	—	200	—	600
	中学校教員養成課程 〔数 学〕 養護学校教員養成課程(中学部) 〔数 学〕	1 次	160	160	160	160	160	—	800
		2 次	—	—	400	—	—	—	400
	中学校教員養成課程 〔理科, 技術〕 養護学校教員養成課程(中学部) 〔技 術〕	1 次	160	160	160	160	160	—	800
		2 次	—	—	300	300	—	—	600
	中学校教員養成課程 〔家 庭〕 養護学校教員養成課程(中学部) 〔家 庭〕	1 次	160	160	160	160	160	—	800
		2 次	—	200	—	200	—	—	400
	中学校教員養成課程 〔保健, 職業〕 養護学校教員養成課程(中学部) 〔保 健〕	1 次	160	160	160	160	160	—	800
		2 次	—	—	—	200	200	—	400
学 部	中学校教員養成課程 〔英 語〕	1 次	160	160	160	160	160	—	800
		2 次	200	200	—	—	200	—	600
	中学校教員養成課程 〔音 楽〕	1 次	200	200	100	100	200	—	800
		2 次	—	—	—	—	—	400	400
	中学校教員養成課程 〔美 術〕 養護学校教員養成課程(中学部) 〔美 術〕	1 次	160	160	160	160	160	—	800
		2 次	—	—	—	—	—	400	400

学 部・学 科 (課 程)		試 験 区 分	教 科 等						合 計
			国語	社会	数学	理科	外国語	実技	
教育 学部	高等学校教員養成課程(保健体育) 特別教科(保健体育)教員養成課程	1 次	160	160	160	160	160	—	800
		2 次	—	—	—	—	—	400	400
法 学 部		1 次	160	160	160	160	160	—	800
		2 次	200	200	—	—	200	—	600
経 済 学 部		1 次	200	200	200	200	200	—	1,000
		2 次	—	400	※200	—	※200	—	600
理 学 部	数 学 科	1 次	200	200	200	200	200	—	1,000
		2 次	—	—	400	200	—	—	600
	物 理 学 科	1 次	120	120	120	120	120	—	600
		2 次	—	—	300	300	—	—	600
	化 学 科	1 次	160	160	160	160	160	—	800
		2 次	—	—	300	500	—	—	800
	生 物 学 科	1 次	200	200	200	200	200	—	1,000
		2 次	—	—	300	300	—	—	600
	地 学 科	1 次	160	160	160	160	160	—	800
		2 次	—	—	200	300	—	—	500
医 学 部		1 次	80	80	80	80	80	—	400
		2 次	—	—	200	200	200	—	600
薬 学 部		1 次	150	150	200	200	200	—	900
		2 次	—	—	200	400	—	—	600
工 学 部		1 次	100	100	100	100	100	—	500
		2 次	—	—	200	150	150	—	500

備 考 経済学部の※印は、数学(200点)又は外国語(200点)のいずれかの選択であることを示す。

4. 試験期日及び試験時間割

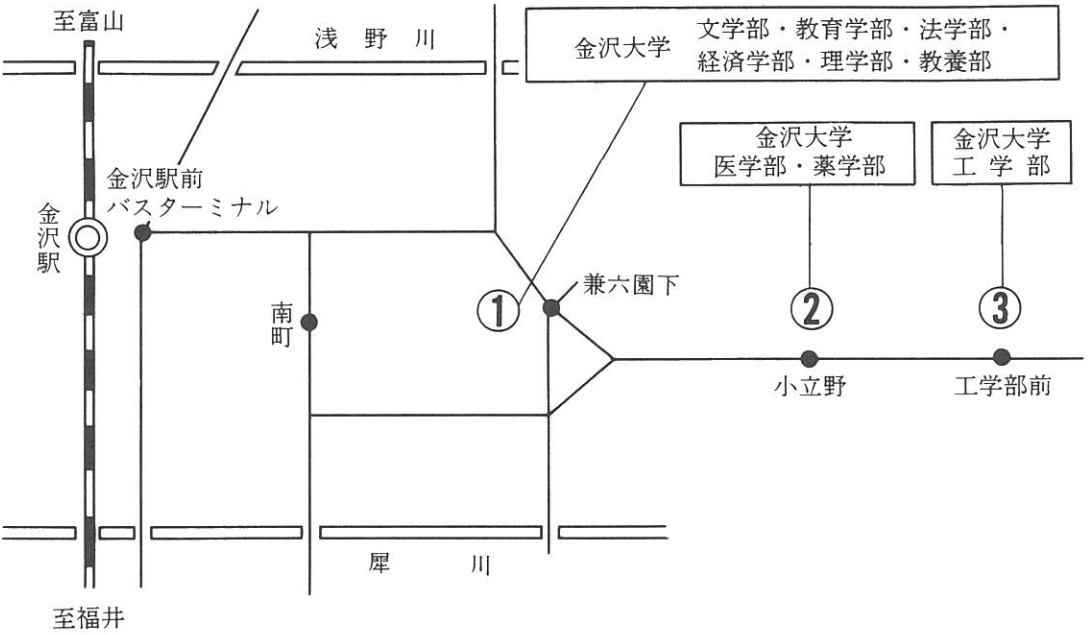
月日(曜)		3月4日(火)		3月5日(水)
学部・学科(課程)				
文 学 部		外国語 9:00~10:20	国 語 11:00~12:20	
教 育 学 部	小学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 (小学部) 言語障害児教育教員 養成課程		国 語 11:00~12:20	数 学 14:10~15:40
	中学校教員養成課程	外国語 9:00~10:20 (国語・社会・保健 職業・英語)	国 語 11:00~12:20 (国語・社会・英語) 理 科 11:00~12:00 (理科・技術・家庭 保健・職業)	社 会 14:10~15:20 (社会・家庭・英語) 数 学 14:10~16:10 (数学・理科・技術)
		実 技 音 楽 (音 楽) 9:30~ 実 技 美 術 (美 術) { 9:00~12:00 13:00~16:00		
	養護学校教員養成課程 (中学部)	外国語 9:00~10:20 (保健)	理 科 11:00~12:00 (技術・家庭・保健)	社 会 14:10~15:20 (家庭) 数 学 14:10~16:10 (数学・技術)
		実 技 美 術 (美 術) { 9:00~12:00 13:00~16:00		
	高等学校教員養成課程 (保健体育) 特別教科(保健体育) 教員養成課程	実 技 体 育 9:00~		
法 学 部		外国語 9:00~10:20	国 語 11:00~12:20	社 会 14:10~15:20
経 済 学 部		外国語 9:00~10:20 (選択)	社 会 11:00~12:30	数 学 14:10~15:40 (選択)
理 学 部	数 学 科 物 理 学 科 地 球 学 科		理 科 11:00~12:40	数 学 14:10~16:10
	化 学 科		理 科 11:00~13:00	数 学 14:10~16:10
医 学 部		外国語 9:00~10:20	理 科 11:00~13:00	数 学 14:10~16:10
薬 学 部			理 科 11:00~13:00	数 学 14:10~16:10
工 学 部		外国語 9:00~10:20	理 科 11:00~12:40	数 学 14:10~16:10

(注)教育学部の()内は、専攻教科を示す。

5. 試 験 場

志 願 学 部	試 験 場	所 在 地
文 学 部	教 養 部	金沢市丸の内1番1号
教 育 学 部	教 育 学 部	
法 学 部	法 学 部	
経 済 学 部	教 養 部	
理 学 部	理 学 部・教 養 部	金沢市宝町13番1号
医 学 部	医 学 部	
薬 学 部	薬 学 部	金沢市小立野2丁目40番20号
工 学 部	工 学 部	

◎金沢大学試験場案内略図



試 験 場	種 類	始 発	乗場 番号	下 車
① 文 学 部 教 育 学 部 法 学 部 経 済 学 部 試験場	北鉄バス	金沢駅前発	7 8 9 10 11 13	南 町 下 車 兼六園下下車
② 医 学 部 薬 学 部 試験場	"	"	10	小 立 野 下 車
③ 工 学 部 試 験 場	"	"	11	工学部前下車

6. 健康診断

1. 調査書の「健康の状況」又は健康診断書によって審査し、必要と認める者については、精密検査を3月4日（火）午後本学で実施する。
2. 精密検査の該当者には、実施に関する事項を3月4日の学力検査及び実技検査終了時まで通知する。
3. 精密検査の該当者が受検しない場合は入学資格を失う。
4. 調査書又は健康診断書に記載された事項が入学後本学で実施する健康診断の結果と著しく相違し、修学に必要な条件を満たしていないことが判明した場合には、入学後であっても入学許可を取り消すことがある。

〔注意事項〕

1. 次の疾患及び機能障害のある者は、入学を許可しない。
 - (1) 重症の心臓病、腎臓病及び糖尿病並びに結核性疾患等
 - (2) 全治の見込みがないか又は再発のおそれが多い精神疾患
 - (3) その他修学に耐えないと認められる疾患並びに集団生活の中で支障があると認められる疾病及び機能障害
2. 学部・学科（課程）によっては、修学に耐えないと認められる視力障害、色覚障害、聴力障害、言語障害及び運動機能障害（肢体不自由）等のある者は、入学を許可しないことがある。

- (1) 視力障害により入学を許可しない場合は次のとおりである。

学部	学科・課程	障害の程度等
教育学部	小学校教員養成課程、中学校教員養成課程、養護学校教員養成課程、言語障害児教育教員養成課程	次のいずれかに該当するもの 1. 両眼の視力が0.3未満のもの（両眼の矯正視力による。） 2. 視力以外の視機能障害が高度のものうち、点字による教育を必要とするもの 3. 将来点字による教育を必要とすることとなると認められるもの
	高等学校教員養成課程、特別教科（保健体育）教員養成課程	両眼の視力が0.5未満のもの（両眼の矯正視力による。）
理学部	全学科	次のいずれかに該当するもの 1. 両眼の視力が0.3未満のもの（両眼の矯正視力による。） 2. 視力以外の視機能障害が高度のものうち、点字による教育を必要とするもの 3. 将来点字による教育を必要とすることとなると認められるもの
医学部	医学科	両眼の視力が0.5未満のもの（両眼の矯正視力による。）
薬学部	全学科	次のいずれかに該当するもの 1. 両眼の視力が0.3未満のもの（両眼の矯正視力による。） 2. 視力以外の視機能障害が高度のものうち、点字による教育を必要とするもの 3. 将来点字による教育を必要とすることとなると認められるもの
工学部	全学科	次のいずれかに該当するもの 1. 両眼の視力が0.3未満のもの（両眼の矯正視力による。） 2. 視力以外の視機能障害が高度のものうち、点字による教育を必要とするもの 3. 将来点字による教育を必要とすることとなると認められるもの

- (2) 色覚障害により入学を許可しない場合は次のとおりである。

学部	学科・課程	障害の程度等
教育学部	小学校教員養成課程、養護学校教員養成課程、言語障害児教育教員養成課程、中学校教員養成課程（保健・技術・家庭・職業）、養護学校教員養成課程（保健・技術・家庭）	色盲又は強度色弱（アノマロスコープによる。）
	中学校教員養成課程（理科・美術）、養護学校教員養成課程（美術）、高等学校教員養成課程、特別教科（保健体育）教員養成課程	色盲、強度色弱、中等度色弱（第1色弱、第2色弱）（アノマロスコープによる。）
理学部	化学科、生物学科、地学科	色盲又は強度色弱（アノマロスコープによる。）
医学部	医学科	色盲又は強度色弱（アノマロスコープによる。）
薬学部	全学科	※注参照
工学部	土木建設工学科	※注参照
	工業化学科、化学工学科	色盲又は強度色弱（アノマロスコープによる。）

※注 合否判定の基準とはしないが、高度の異常は修学上支障を来す場合がある。

7. 出願期間

- 期 間 昭和61年2月8日（土）～昭和61年2月15日（土）
- 受付時間 午前9時から午後5時まで。ただし、土曜日は正午までとし、日曜日及び祝日は受け付けない。
- 持参する場合も郵送による場合も所定期限までに必着するよう提出すること。

8. 出願手続

(1) 出願方法

志願者は、(2)の出願書類等を一括して本学所定の封筒に入れ、出身学校長を経て次の出願先へ提出すること。ただし、志願者から直接提出してもよい。この場合、出身学校長が作成した調査書は、厳封したものとする。

出 願 先

文学部	〒920 金沢市丸の内1番1号	文学部 学生係	☎0762 62-4281
教育学部	〃	教育学部 教務係	〃
法学部	〃	法学部 学生係	〃
経済学部	〃	経済学部 学生係	〃
理学部	〃	理学部 学生係	〃
医学部	〒920 金沢市宝町13番1号	医学部 教務係	☎0762 62-8151
薬学部	〃	薬学部 学生係	〃
工学部	〒920 金沢市小立野2丁目40番20号	工学部 学生係	☎0762 61-2101

(2) 出願書類等

① 入学志願票 志願コード票 写真票 受験票	本要項に添付の用紙による。 「共通第1次成績請求票(国公立大学提出用)」及び写真2枚をそれぞれ所定の欄にはり付けること。(「入学志願票等記入上の注意」を参照のこと。)
② 検定料	11,000円、現金又は郵便為替(普通為替に限る。 郵送による場合は、必ず郵便局の発行する普通為替によること。この場合、受取人指定欄等は記入しないこと。)
③ 検定料納付用紙	本要項に添付の用紙による。
④ 調査書	文部省所定の様式により出身学校長が作成したもの (「出欠の記録」欄で長期の欠席があった場合は、必ず備考欄にその診断名などを記入すること。「健康の状況」欄の記入にあたっては、異常がない場合又は特に記入する事項がない場合でも、必ずその旨を記入すること。)
⑤ 健康診断書	昭和59年3月以前の高等学校卒業生及び大学入学資格検定合格者等は、本要項に添付の用紙により視力、色覚、聴力、結核並びにその他の疾病及び異常について医師が証明し、厳封したもの。 (昭和60年3月高等学校卒業生及び昭和61年3月卒業見込みの者は提出の必要はない。)
⑥ 返送用封筒	受験票等送付用で、本要項に添付の封筒に、自己の住所氏名、郵便番号を明記し、定形速達料金の切手(260円)をはり付けたもの。
⑦ あて名票	本要項に添付の用紙による。

教育学部の志願者については、上記のほか次の書類も提出すること。

⑧ 教育学部写真票	小学校教員養成課程、聾学校教員養成課程、養護学校教員養成課程(小学部)及び言語障害児教育教員養成課程の志願者 本要項に添付の用紙による。写真は、所定の欄にはり付けること。(写真は、①の写真票、受験票と合わせて3枚)
⑨ 選択系列・曲目届	中学校教員養成課程(音楽専攻)の志願者 本要項に添付の用紙による。
⑩ 選択種目届	高等学校教員養成課程(保健体育)及び特別教科(保健体育)教員養成課程の志願者 本要項に添付の用紙による。

- (注) 1. 外国人は、上記書類のほか、外国人登録済証明書(在留資格が明示されたもの)を添付し、提出書類には当該証明書に記載の氏名を用いること。
2. 文部大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の修了者は、修了証明書及び成績証明書をもって調査書に代える。
3. 大学入学資格検定試験の合格者は、当該試験の成績証明書をもって調査書に代える。
4. 調査書の提出困難な学校(廃校、被災等)の出身者は、その旨を証明した書類をもって調査書に代える。
5. 身体に障害のある入学志願者で、受験上、修学上特別な配慮を必要とするものは、あ

らかじめ本学と協議を行った上、協議済みである旨の文書(様式は問わない。)を添えて出願すること。

協議は、下記事項を記載した文書(様式任意)に医師の診断書等を添え、学生部入学主幹付入学試験係へ提出すること。

- (1) 志望学部・学科等
- (2) 障害の種類・程度
- (3) 受験上、特別な配慮を希望する事項
- (4) 修学上、特別な配慮を希望する事項
- (5) 高等学校でとられていた特別措置
- (6) 日常生活の状況

9. 合格者発表

1. 合格者の氏名は、3月15日(土)午後4時(予定)に教養部前掲示場で発表する。
 2. 合格者には、同時に合格通知書及び入学手続に必要な書類を速達郵便で送付する。
 3. 電話その他による問い合わせは、受け付けない。
- (注) 合格者の入学手続は、昭和61年3月19日(水)から同3月22日(土)まで(午前9時から午後5時まで。ただし、土曜日は正午までとし、祝日は受け付けない。)の期間に行う。この期間に手続を行わなかった場合は、入学できないので注意すること。

10. 注意事項

1. 共通第1次学力試験受験票は、本学の試験の際に必ず持参すること。
本学の受験票及び共通第1次学力試験受験票は、入学手続の際にも必要であるから、大切に保管しておくこと。
2. 2月22日(土)を過ぎても受験票が到着しない場合は、出願先へ照会すること。
3. 出願書類受理後は、いかなる理由があっても書類の返却、記載事項の変更及び検定料の払いもどしはしない。
4. 出願手続に不正の事実があった場合は、入学許可を取り消すことがある。
5. 受験票と同時に送付する「受験者心得」の各事項に注意すること。
6. その他、受験に関する照会は、本人の住所、氏名、郵便番号等を明記し、往復はがきによるか返信用封筒(所要の郵便切手をはり付けたもの)を同封して、志願学部あて行うこと。

Ⅱ 推薦入学

教育学部

1. 課程及び募集人員

中学校教員養成課程 技術専攻	2 名 以 内
高等学校教員養成課程（保健体育）	両課程合わせて5名以内
特別教科（保健体育）教員養成課程	

2. 出願資格及び推薦の要件

昭和61年3月高等学校卒業見込みの者で、共通第1次学力試験を受験し、かつ、課程に応じ次の各項に該当するもので、高等学校長が特に優れていると認め、責任をもって推薦できる者とする。

◎ 中学校教員養成課程 技術専攻

- (1) 人物が優れ、健康で中学校教育に熱意のある者
- (2) 高等学校における学習成績概評がA段階以上で、本専攻に適性を有する者

◎ 高等学校教員養成課程（保健体育）及び特別教科（保健体育）教員養成課程

- (1) 人物が優れ、健康で中学校又は高等学校教育に熱意のある者
- (2) 高等学校における学習成績概評がA段階以上で、体育運動の分野で特に優れた能力を持つ者

推薦は、中学校教員養成課程にあつては1校に1名、高等学校教員養成課程（保健体育）及び特別教科（保健体育）教員養成課程にあつては両課程を合わせて1校に1名とする。

なお、高等学校教員養成課程（保健体育）及び特別教科（保健体育）教員養成課程は、相互に第2志望とすることができる。

（注）高等学校長は、推薦に当たっては、本募集要項「Iの6. 健康診断」の項（14ページ）に注意すること。

3. 出願期間

昭和61年2月3日（月）～昭和61年2月7日（金）

受付時間は、午前9時から午後5時まで。

持参、郵送による場合も、期限までに必着のこと。

4. 出願手続

(1) 出願方法

(2)の提出書類は、高等学校長が取りまとめ、教育学部教務係へ提出すること。

郵送の場合は、本募集要項に添付の所定の封筒に「推薦入学」と朱書すること。

出 願 先 〒920 金沢市丸の内1番1号
金沢大学教育学部教務係

(2) 提出書類

① 一般の入学志願者が提出すべき出願書類等（本募集要項16ページ）

（注）入学志願票及び志願コード票の選択受験科目欄並びに選択種目届は、推薦入学に合格しなかった場合に、第2次試験で受験する選択科目及び選択種目を記入すること。

② 中学校教員養成課程技術専攻志願者は、「推薦書」（所定の用紙で高等学校長が作成したもの）及び「志願理由書」（所定の用紙で志願者本人が作成したもの）

高等学校教員養成課程（保健体育）及び特別教科（保健体育）教員養成課程志願者は、「推薦書」（所定の用紙で高等学校長が作成したもの）及び「体育運動に関する調査書」（所定の用紙で高等学校長が作成したもの）

「推薦書」、「志願理由書」及び「体育運動に関する調査書」の用紙は、高等学校長からの請求により教育学部教務係で交付する。郵送を希望する場合は、返信用封筒（所要の切手をはり付けたもの）を添付すること。

5. 選考方法

共通第1次学力試験、面接、調査書、推薦書及び健康診断を総合して選考する。

面接実施期日及び場所

期 日	昭和61年2月18日（火）9時から
場 所	金沢大学教育学部

（注）健康診断

調査書による審査の結果、特に必要があると認めた者については、面接の当日、本学で精密検査を行う。

6. 選考結果の通知

選考の結果は、昭和61年2月21日（金）付けで高等学校長を通じて本人に通知する。

選考に合格した者（合格内定者）には、入学確約書用紙を送付する。入学確約書は、昭和61年3月1日（土）まで（必着）に、高等学校長と連署で教育学部教務係へ提出すること。

7. 選考に合格しなかった者の取扱い

一般の入学志願者と同様に第2次試験を受けることができる。

この場合、出願書類及び検定料を再度提出する必要はない。

8. 合格者発表

推薦入学の合格者発表は、昭和61年3月15日（土）に一般の合格者と区別しないで行う。（「Iの9. 合格者発表」の項を参照のこと。）

経済学部

1. 学科及び募集人員

経済学科 5名以内

2. 出願資格及び推薦の要件

- (1) 昭和61年3月高等学校の商業に関する学科を卒業見込みの者で、かつ、高等学校における学習成績概評がA段階以上に該当するもので、高等学校長が責任をもって推薦できる者とする。(なお、特別活動において優れた能力を有する者が望ましい。)
- (2) 推薦は、1校に1名とする。

3. 出願期間

昭和60年11月25日(月)～昭和60年11月30日(土)

受付時間は、午前9時から午後5時まで。ただし、土曜日は正午までとする。

持参、郵送による場合も、期限までに必着のこと。

4. 出願手続

- (1) 出願方法
 - (2)の提出書類は、高等学校長が取りまとめ、経済学部学生係へ提出すること。郵送の場合は、本募集要項に添付の所定の封筒に「推薦入学」と朱書すること。

出願先 〒920 金沢市丸の内1番1号
金沢大学経済学部学生係
- (2) 提出書類
 - ① 一般の入学志願者が提出すべき出願書類等(本募集要項16ページ。ただし、入学志願票及び志願コード票中、選択受験科目及び共通第1次成績請求票については除く。)
 - ② 推薦書(所定の用紙で高等学校長が作成したもの)
推薦書の用紙は、高等学校長からの請求により経済学部学生係で交付する。
郵送を希望する場合は、返信用封筒(所要の切手をはり付けたもの)を添付すること。

5. 選考方法

共通第1次学力試験及び第2次試験を免除し、面接、小論文、調査書、推薦書及び健康診断を総合して選考する。

面接及び小論文実施期日並びに場所

期 日	時 間	区 分	場 所
昭和60年12月11日(水)	10:30～12:30	小論文	金沢大学
昭和60年12月12日(木)	9:00から	面接	経済学部

(注) 1. 小論文

小論文は、資料を与え、それに関連して800字以内で論述させる。資料が英文の場合は、辞書を貸与する。

2. 健康診断

調査書による審査の結果、特に必要があると認めた者については、12月11日(水)の小論文終了後、本学で精密検査を行う。

6. 選考結果の通知

選考の結果は、昭和60年12月20日(金)付けで高等学校長を通じて本人に通知する。

選考に合格した者(合格内定者)については、入学確約書用紙を送付する。入学確約書は昭和61年1月10日(金)まで(必着)に、高等学校長と連署で経済学部学生係へ提出すること。

7. 選考に合格しなかった者の取扱い

選考の結果、合格しなかった者のうち共通第1次学力試験を受験した者は、所定の経済学部志願書により選択受験科目の届出及び共通第1次学力試験成績請求票(国公立大学提出用)を昭和61年2月8日(土)から同2月15日(土)まで(必着)に提出すれば、一般の入学志願者と同様に第2次試験を受けることができる。

この場合、出願書類及び検定料は、再度提出する必要はない。

8. 合格者発表

推薦入学の合格者発表は、昭和61年3月15日(土)に一般の合格者と区別しないで行う。「Iの9. 合格者発表」の項を参照のこと。

Ⅲ 外国人特別学生（私費外国人留学生）の入学者選抜

1. 出 願 資 格

外国人で、次の各号のいずれかに該当し、かつ、共通第1次学力試験を受験した者

- (1) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部大臣の指定したもの
- (2) 文部大臣の指定した者（国際バカロレア資格を有する者で18歳に達したもの）

2. 入学者選抜方法等

- (1) 共通第1次学力試験及び本学の第2次試験（本要項「Ⅰ第2次試験」による。）のほかに、面接を行う。
- (2) 共通第1次学力試験及び第2次試験の成績並びに書類審査及び健康診断の結果を総合して日本人とは異なる基準により、定員外として選考する。
なお、日本語能力試験及び私費外国人留学生統一試験（いずれも財団法人日本国際教育協会が実施する。）を受験していることが望ましい。

3. 学力検査等の実施教科・科目

本学が行う第2次試験の実施教科・科目は、本要項「Ⅰの1. 学力検査実施教科・科目」による。

4. 出 願

この入学者選抜を希望する者は、出願の際にその旨を文書で申し出るとともに、本要項「Ⅰの7. 出願期間及び8. 出願手続」に記載のほか、次の書類を提出しなければならない。ただし、次の書類を出願期間内に提出することが困難な場合は、2月22日（土）までに提出すること。

なお、面接の日時及び場所等については、出願書類受理後に連絡する。

- (1) 履歴書（日本語で記載のこと）
- (2) 最終課程の修了証明書、検定合格証明書又は国際バカロレア資格証書並びにそれらの成績証明書
- (3) 日本在住者の身元保証書

入学志願票等記入上の注意

※印の欄を除き、該当事項を記入すること。

1. 入 学 志 願 票

推 薦 入 学	推薦入学を志願する場合は、○印を記入すること。
志願学部・学科（課程）	◆ 教育学部中学校教員養成課程及び養護学校教員養成課程（中学部）を志願する者は、専攻欄に志望の専攻教科名を記入すること。 ◆ 工学部機械工学科及び機械工学第二学科を志望する者は、学科欄に「機械工学系学科」と記入すること。
第 2 志 望 （3ページ「入学者選抜方法」3の項を参照のこと。）	◆ 教育学部の一部の課程の志願者で、他の課程を第2志望とする場合は、当該第2志望の課程名を記入すること。 ◆ 薬学部志願者で、他の学科を第2志望とする場合は、当該第2志望の学科名を記入すること。
工 業 教 員 養 成 課 程	◆ 工学部志願者（生産精密工学科を除く。）は、工業教員養成課程の志望の有無について、該当の文字を○で囲むこと。
選 択 受 験 科 目 （24ページ「学部・学科（課程）別選択受験科目一覧」を参照のこと。）	◆ 選択して受験する科目（本要項「Ⅰの1. 学力検査実施教科・科目」（4、5ページ）で○印を付した科目）としている学部・学科（課程・専攻）の志願者は、選択する科目のコードを○で囲むこと。

学部・学科（課程）別選択受験科目一覧

学部・学科（課程）		科目及び科目コード
文 学 部		外国語（英語12、ドイツ語13）から1科目
教 育 学 部	小学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 養護学校教員養成課程（小学部） 言語障害児教育教員養成課程	実 技（音楽14、美術15、体育16）から1科目
	中学校教員養成課程 〔国語〕	外国語（英語12、ドイツ語13）から1科目
	中学校教員養成課程 〔社会〕	社 会（日本史02、世界史03、地理04）から1科目 外国語（英語12、ドイツ語13）から1科目
	中学校教員養成課程 〔理科・技術〕 養護学校教員養成課程（中学部） 〔技術〕	理 科（物理08、化学09、生物10、地学11）から1科目
	中学校教員養成課程 〔家庭〕 養護学校教員養成課程（中学部） 〔家庭〕	社 会（日本史02、世界史03、地理04）から1科目 理 科（物理08、化学09、生物10、地学11）から1科目
	中学校教員養成課程 〔保健・職業〕 養護学校教員養成課程（中学部） 〔保健〕	理 科（物理08、化学09、生物10、地学11）から1科目 外国語（英語12、ドイツ語13）から1科目
医 学 部	中学校教員養成課程 〔英語〕	社 会（日本史02、世界史03、地理04）から1科目
	法 学 部	社 会（現代社会01、日本史02、世界史03、倫理及び政治・経済05）から1科目 外国語（英語12、ドイツ語13）から1科目
経 済 学 部		社 会（日本史02、世界史03、政治・経済06）から1科目 〔数学07、外国語・英語12、外国語・ドイツ語13〕から1科目
理学部	数学科、生物学科、地学科	理 科（物理08、化学09、生物10、地学11）から1科目
医 学 部		外国語（英語12、ドイツ語13）から1科目
工 学 部	土木建設工学科 工業化学工学科	理 科（物理08、化学09）から1科目 外国語（英語12、ドイツ語13）から1科目
	機械工学第2工学科 機械工学第3工学科 電気情報工学科 生産精密工学科	外国語（英語12、ドイツ語13）から1科目

2. 志願コード票

次の表の説明に従ってコード等を記入すること。

区 分	説 明	コード
③ 第 2 志 望 (教育学部の一部の課程及び薬学部)	教育学部 ◆高等学校教員養成課程（保健体育）の志願者で、特別教科（保健体育）教員養成課程を第2志望とするもの	9 6
	◆特別教科（保健体育）教員養成課程の志願者で、高等学校教員養成課程（保健体育）を第2志望とするもの	8 2
	薬学部 ◆薬学科の志願者で、製薬化学科を第2志望とするもの	5 5
	◆製薬化学科の志願者で、薬学科を第2志望とするもの	5 1
④ 生 年 月 日	数字が1ケタの場合は、あたりに0を記入すること。 (大正生まれの場合は、50を加えた数字を記入する。)	
⑤ 性 別	男	1
	女	2
⑥ 選択受験科目	入学志願票で○印を付したコードを記入すること。 1科目の場合はA欄に、2科目の場合はA、Bの両欄に記入する。	
⑦ 資格取得年	高等学校卒業見込み又は卒業の昭和の年を記入する。 検定合格者等は、検定合格等の昭和の年を記入する。	
⑧ 工業教員養成課程	工学部志願者で、入学志願票に志望有としたもの	1
⑨ 氏 名	カタカナ記入は、左端から記入し、姓と名の間を1コマ開け、濁点及び半濁点は1コマとすること。漢字記入は、正しく、かい書で丁寧に記入すること。	

昭和61年度
志願コード票

①受験番号

※

②成績請求票

大学入試センターから交付された
「61 共通第1次成績請求票 (国公
私立大学提出用)」をはり付ける。

③第2志望
(教育学部及び薬学部)

コード

④生 年 月 日

年 月 日

⑤性別

コード

⑥ 選択受験科目

コード A B

⑦資格取得年

⑧ 工業教員養成
課程(工学部)

コード

⑨氏 名

カタカナ記入
漢字記入 (姓) (名)

⑩高等学校等名

所在都道府県名 高 等 学 校 等 名
高等学校

入学志願票等記入上の注意

- ※印の欄は、記入しないこと。
- 「入学志願票等記入上の注意」(23ページ)を参照し、誤りのない
ように記入すること。

検定料納付用紙

(注) 志願学部、学科 (課
程) 及び氏名を原符並
びに領収証書の太線枠
内に記入すること。

昭和 60 年度	No.
国立学校特別会計	文部省所管
項	授業料及入学検定料
目	入学料及検定料
納入者	学部 学科 (課程) 殿
納付金額	¥ 11,000-
検定料	年 月 日領収
収入官 更検印	

領収証書

昭和 60 年度	No.
国立学校特別会計	文部省所管
項	授業料及入学検定料
目	入学料及検定料
納入者	学部 学科 (課程) 殿
納付金額	¥ 11,000-
検定料	年 月 日領収
領収印	

昭和61年度金沢大学入学志願者

※
No.

健康診断書

※

ふりがな			男・女	志願学部 学科 (課程)	学 部 学科(課程)
氏 名	昭和 年 月 日生				
生年月日					
現 住 所			出 身 高等学校	国立 公立 私立	高等学校
診 断 事 項				医 師 所 見	
視 力	右	・ (・)			
	左	・ (・)			
色 覚					
聴 力	右				
	左				
結 核					
その他の疾病 及び異常					
<p>診断の結果上記のとおり相違ないことを証明する。</p> <p>昭和 年 月 日</p> <p>住所 (所在地)</p> <p>医療機関名</p> <p>医師の氏名</p> <p style="text-align: right;">印</p>					

- お願い
- 1 検査方法等は、学校保健法施行規則に定めるところによってください。
 - 2 色覚欄は異常の有無及び程度を、聴力欄は障害の有無及び損失デシベル等を記入してください。
 - 3 診断事項中、異常がない場合又は特に記入事項のない場合でもその旨記入してください。
 - 4 本診断書は、発行者において厳封してください。
 - 5 ※の欄は記入しないでください。

入学志願者
への注意

この診断書は、昭和59年3月以前の高等学校卒業者及び大学入学資格検定合格者等用のものである。

選 択 系 列 ・ 曲 目 届

中学校教員養成課程音楽専攻の志願者は、下記の要領で該当欄に記入すること。

記

1. 選択系列については、ア、イ、ウ、エのいずれかに○をつけること。
2. 選択曲目については、選択系列に従って該当する欄に記入すること。
 ピアノⅢについては、モーツァルトを選んだ者はケツヒエル番号を、ベートーヴェンを選んだ者は作品番号を書き、それぞれ演奏する楽章と調名を記入すること。
3. ※欄は記入を要しない。

----- (きりとり線) -----

I. 受 験 番 号

※

II. 選 択 系 列

ア

イ

ウ

エ

III. 選 択 曲 目

声 楽	歌 曲 A 系列ア	作 曲 者 名	曲 名	調 名	
	歌 曲 B 系列イウエ	作 曲 者 名	曲 名	調 名	
	歌 曲 C 系列ア	作 曲 者 名	曲 名	調 名	
器 楽	ピアノⅢ 系列イ	モーツァルト ソナタ	ベートーヴェン ソナタ		
		K.V. () 楽章 長短調	Op. () 楽章 長短調		
	管 楽 器 系列ウ	楽 器 名	作 曲 者 名	曲 名	
	弦 楽 器 系列エ	楽 器 名	作 曲 者 名	曲 名	

志 願 者 氏 名

選 択 種 目 届

高等学校教員養成課程（保健体育）及び特別教科（保健体育）教員養成課程の志願者は、下記の要領で該当欄に記入すること。

記

- 1 実技検査(4), ②運動技能検査の種目(9ページ)から一つを選んで記入すること。
- 2 ※欄は記入を要しない。

----- (きりとり線) -----

I. 受験番号

※

II. 選択種目

--

志願者氏名

性別

男・女

金沢大学案内

概 要

更に、昭和55年4月には、法文学部の拡充改組により、文学部、法学部及び経済学部が新たに設置され計8学部となった。

大学院については、昭和 30 年に医学研究科（博士課程）が設置され、その後、昭和 38 年理学研究科（修士課程）、昭和 39 年薬学研究科（修士課程）、昭和 40 年工学研究科（修士課程）、昭和 46 年法学研究科（修士課程）、昭和 47 年文学研究科（修士課程）、昭和 57 年教育学研究科（修士課程）、昭和 59 年経済学研究科（修士課程）、更に、総合大学院（後期 3 年博士課程）の創設を目指し、昭和 60 年薬学研究科（後期 3 年博士課程）が設置され今日に至っている。

専攻科には、特殊教育特別専攻科が、別科には、養護教諭特別科がそれぞれ設置されている。

なお、金沢大学は、創造と総合の学府を目指し、丸の内の城内地区から南東へ約4キロメートルの角間地区へ、昭和63年度より総合移転を開始することになっている。

金沢大学出願書類在中)

学科 志望	学科 課程	
差出人	住所	住 所 (方) TEL — () —

教養部及び学部紹介

教 養 部

本学の修業年限は4年（医学部は6年）で、最初の1年半（医学部は2年）は教養部において一般教養課程を履修し、その後それぞれの学部に進学し、専門教育課程を履修することになっている。教養部は新しい大学制度の理念にしたがい、高度の教養を身につけるために設けられたもので、専門教育課程への単なる準備教育ではなく、一般的教養をそなえた判断力と批判力に富む人間を育成することを目的としている。

教養部には次の科目がある。

一般教育科目

- （人 文 系） 哲学，倫理学，歴史学，文学，西洋古典学，音楽，美術
- （社 会 系） 日本国憲法，法学，政治学，経済学，社会学，心理学，地理学
- （自 然 系） 数学，物理学，物理学実験，化学，化学実験，生物学，生物学実験，地学，地学実験，力学，図学
- （総合科目） 文化人類学，統計学，科学技術文化史

外国語科目

英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，西洋古典語（ラテン語，ギリシャ語）

保健体育科目

保健体育講義，保健体育実技

基礎教育科目

放射線物理学，体液生理学，一般生理学，人体発生学，細胞・組織学，生体物質の化学

日本語科目及び日本事情に関する科目（外国人留学生対象）

文 学 部

本学部は、旧第四高等学校を母体に昭和24年金沢大学法文学部文学科として発足して以来、逐年充実され、昭和55年4月法文学部哲学科、史学科及び文学科を発展的に再編成して、新しく創設された学部である。本学部には、行動科学科、史学科及び文学科の3学科が設置されている。

文学部は、人文社会諸科学の長足の進歩に即応し、人間教育に対する社会的要請に応じて、新しい研究教育組織を確立し、総合的かつ専門的知識を身につけた人材を養成することを目的としている。

本学部専門課程においては、各学科所定の授業科目の単位を修得するほかに、卒業論文（行動科学科においては、卒業論文又は特別演習）が課される。

文学部（行動科学科、史学科、文学科）における卒業生は、教育職員、公務員、出版報道関係などに就職し、活躍している。また、大学院への進学者も多い。

なお、昭和47年に大学院文学研究科（修士課程、哲学専攻・史学専攻・国文学専攻・英文学専攻・ドイツ文学専攻の5専攻、入学定員28名）が設置されているが、文学部の創設に伴い、さらに整備充実が進められる計画である。

行動科学科

行動科学科には、実験行動学，差異行動学，社会行動学，動態社会学，文化人類学，比較文化及び行動科学基礎論の各講座が設置されている。

行動科学科においては、行動諸科学の基本的知見を総合的に履修する一方、各自の関心に応じて、以下の五つのコースのいずれか一つを選択し、各コースのカリキュラムを中心的に履修することになっている。

各コースごとの定数を志望者数が超える場合には、選考の上、履修コースを決定することがある。

各コース名、各コースを担当する講座及び各コースごとの主な授業科目は、次のとおりである。

（心理学履修コース）

行動の基礎としての認知・学習等，あるいは，パーソナリティ・行動病理等を研究する。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

実験行動学 { 心理学概論，応用心理学概論，行動学研究法，
差異行動学 { 心理検査法，心理学実験

（社会学履修コース）

社会調査の技法を用いて，対人関係・集団・コミュニティ等，あるいは，社会移動・コミュニケーション・社会病理等を研究する。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

社会行動学 { 社会学概論，社会学史，社会調査，
動態社会学 { 社会調査実習

（文化人類学履修コース）

民族・社会の慣習や制度等の調査と分析を通して，文化の構造と機能を研究する。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

文化人類学 文化人類学, 人類学, 文化人類学調査実習
(比較思想履修コース)

異なった文化, 特に思想・宗教の相互接触や交流等を研究する。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

比較文化学 文化構造論, 思想と文化, 宗教と文化
(哲学履修コース)

諸科学の論理的・認識論的・行為論的な基礎を問い, その発展に寄与してきた哲学思想を考察する。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

行動科学基礎論 哲学概論, 哲学史, 論理学

以上の外に, 行動科学全般へのオリエンテーションとしての行動科学序論と, 各講座ごとの個別テーマを詳説する特殊講義, それらについての自主的学修能力を養うための演習が開講される。

史 学 科

史学科には, 日本史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 地理学及び地誌学の各講座が設置されている。

史学科においては, 日本史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学及び地理学の各概説並びに史学概論など基本的知識を総合的に履修する一方, 各自の関心に応じて, 以下の五つのコースのいずれか一つを選択し, 各コースのカリキュラムを中心的に履修し, さらに古文書, 中国史料, 欧米語の文献史料の講読研究, 遺跡の発掘, 文化財調査, 地域文化の調査, 地理実地研究などを通して専門的知識を深めることとしている。

各コースごとの定数を志望者数が超える場合には, 選考の上, 履修コースを決定することがある。

各コース名, 各コースを担当する講座及び各コースごとの主な授業科目は, 次のとおりである。

(日本史学履修コース)

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

日 本 史 学 日本史学概説, 日本史学特殊講義, 日本史学演習
(東洋史学履修コース)

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

東 洋 史 学 東洋史学概説, アジア諸地域史, 東洋史学特殊講義, 東洋史学演習
(西洋史学履修コース)

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

西 洋 史 学 西洋史学概説, 西洋史学特殊講義, 西洋史学演習
(考古学履修コース)

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

考 古 学 考古学概説, 考古学特殊講義, 考古学演習, 考古学実習

(地理学履修コース)

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

地 理 学 地理学概説, 自然地理学概説, 地域論, 地誌, 地理学特殊講義演習,
地 誌 学 地理学実習, 地域調査実習

文 学 科

文学科には, 国語学, 国文学, 中国語中国文学, イギリス文学, アメリカ文学, 英語学, ドイツ文学, ドイツ語学, フランス語フランス文学及び言語学の講座が設置されている。

文学科においては, 文学全般に関する文学概論又は言語学概論を履修する一方, 各自の関心に応じて, 以下の六つのコースのいずれか一つを選択し, 各コースのカリキュラムを中心的に履修することになっている。

各コースごとの定数を志望者数が超える場合には, 選考の上, 履修コースを決定することがある。

各コース名, 各コースを担当する講座及び各コースごとの主な授業科目は, 次のとおりである。

(国語国文学履修コース)

国語学と国文学に大別される。国語学は, 日本語の原理法則を解明する学問であり, 音韻, 文法, 意義の三つに分けられる。国文学は, 古今の日本文学を文献学を基礎として, さらに文芸学的, 歴史社会学的及び民俗学的な諸方法をも加え研究するものである。その外, 日本における漢文学など比較文学の研究も行われる。

各講座が担当する主な授業科目は, 次のとおりである。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

国 語 学 国語学概説, 国語学史, 国語学特殊講義, 国語学演習

国 文 学 国文学概説, 国文学史, 国文学特殊講義, 国文学演習

(中国語中国文学履修コース)

中国語学と中国文学に大別される。中国語学は, 中国語の原理法則を解明する学問であり, 中国文学は, 古今にわたる中国文学を研究する。

中国語学及び中国文学の諸分野の研究を通して, 中国文化一般に関する専門的知識の修得につとめる。更に外国人教師による実際の指導も行われる。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

中国語中国文学 中国文学概説, 中国文学史, 中国語学概説, 中国文学特殊講義, 中国語学特殊講義, 中国文学演習, 中国語学演習

(英語英米文学履修コース)

英語・英米文学の研究を通して, 英米の文化一般に関する研究と教育が行われる。各作家, 作品の個別的研究と演習など文学研究のほか, 英語の理論と歴史に関する講義, 演習, 更に外国人教師による実際の指導, LL装置による訓練も行われる。

各講座が担当する主な授業科目は, 次のとおりである。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

イギリス文学 英文学史, 英文学特殊講義, 英文学演習

アメリカ文学 米文学史, 米文学特殊講義, 米文学演習
英語学 英語学概説, 英語学特殊講義, 英語学演習

(ドイツ語ドイツ文学履修コース)

ドイツ語・ドイツ文学の研究を通して, ドイツの文化一般に関する研究と教育が行われる。
各作家, 作品の個別的研究と演習など文学研究のほか, ドイツ語の理論と歴史に関する講義,
演習, 更に外国人教師による実地的な指導, LL装置による訓練も行われる。

各講座が担当する主な授業科目は, 次のとおりである。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

ドイツ文学 ドイツ文学史, ドイツ文学特殊講義, ドイツ文学演習

ドイツ語学 ドイツ語学概説, ドイツ語学特殊講義, ドイツ語学演習

(フランス語フランス文学履修コース)

フランス語・フランス文学の研究を通して, フランス文化一般に関する研究と教育が行われる。
各作家作品の個別的研究と演習など文学研究のほか, フランス語の理論と歴史に関する講義, 演
習, 更に外国人教師による実地的な指導も行われる。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

フランス語フランス文学 フランス文学史, フランス文学特殊講義, フランス文学演習,
フランス語学概説, フランス語学特殊講義, フランス語学演
習

(言語学履修コース)

言語学は, 人間の「ことば」を対象とする学問であり, 日本語を含む世界の諸言語の構造(音
韻・文法・意味)の研究を中心に据えながら, 地理的分布や社会的機能などの観点からも多面
的にとらえようとする。本講座では, 言語学概論及び音声学を始め, 記述言語学や歴史・比較
言語学の諸分野について個別的にあるいは一般的に講ずる。また, コンピューターによる言語処
理についての実習や, フィールド・ワーク(臨地調査)も行う。英・独・仏・中以外の外国語も
履修できるよう特殊語学も開講される。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

言語学 言語学概論, 比較言語学, 音声学, 言語学特殊講義, 言語学演習, 言語
学実験実習, 特殊語学(ギリシャ語・ラテン語・アラビア語・ヘブライ
語・エチオピア語・その他)

◆教育職員免許状

卒業に必要な単位の外に, 所定の「教職科目」等を履修した者は, 次の種類・教科の教育職
員免許状を取得することができる。

高等学校教諭二級普通免許状 } { 「社会」 (行動科学科, 史学科)
中学校教諭一級普通免許状 } { 「国語」・「英語」・「ドイツ語」 (文学科)

◆大 学 院 (修士課程)

定員

文学研究科	哲 学 専 攻	6 名	英 文 学 専 攻	6 名
	史 学 専 攻	7 名	ドイツ文学専攻	3 名
	国 文 学 専 攻	6 名	計	28 名

教 育 学 部

本学部は, 学術を中心として深く専門の学芸の研究と指導とを行い, ひろく教育界の各方面に
活躍できる有能な人材を養成することを目的として, 旧石川師範学校, 旧石川青年師範学校, 旧
金沢高等師範学校を母体として発足した学部である。

本学部には, 小学校教員養成課程, 中学校教員養成課程, 高等学校教員養成課程, 聾学校教員
養成課程, 養護学校教員養成課程, 言語障害児教育教員養成課程, 特別教科(保健体育)教員養
成課程の7課程が設置されている。昭和57年には大学院教育学研究科修士課程(7専攻)が開設さ
れ, 更に昭和60年に1専攻が増設され8専攻となった。

なお, 研究と指導の単位として, 教育・教育心理・国語・英語・歴史・地理・法経・哲学・数
学・物理・化学・生物・地学・音楽・美術・保健・体育・家庭・産業技術・聾・養護教育の21教
室があり, 学生は, いずれかの教室に所属する。

卒業に際しては, 各課程所定の科目の単位を修得するほかに, 聾学校教員養成課程及び養護学
校教員養成課程(中学部)を除いては, 卒業論文が課される。

本学部における主な授業科目は, 次のとおりである。

〔教科に関する主な専門科目〕

国 語 科	一 国語学概論, 国語学演習, 国文学概論, 国文学演習, 漢文講読, 書道演習
英 語 科	一 英語学概説, 英語史概説, 英米文学史, 英文学演習, 英作文・英会話
社 会 科	一 平安時代史研究, 日本近代政治史, 西洋史概説, 東洋史概説 一 自然地理学, 経済地理学, 日本・世界地誌, 文化地理学, 地理学演習・実習 一 憲法学演習, 経済学原理, 社会学・特論・演習 一 哲学概論・特論・演習, 倫理学概論・演習, 倫理思想史
数 学 科	一 代数学, 解析学, 幾何学, 応用数学
理 科	一 物理学概説, 物理学実験 一 (物理化学, 無機化学, 有機化学, 分析化学)の講義・実験 一 植物生理化学, 動物生理学, 分子遺伝学, 生態学, 生物学実験・野外実習 一 地質学, 古生物学, 鉱物学・岩石学, 地学特論, 地学実験, 地学野外実習
音 楽 科	一 ソルフェージュ, 声楽(合唱を含む), 器楽(合奏を含む), 指揮法, 音楽理論・音楽史
美 術 科	一 絵画, 彫塑, デザイン, 工芸, 美術理論及び美術史
保 健 科	一 学校保健, 生理学, 衛生学
家 庭 科	一 栄養学, 食品学, 被服学, 衣科学, 住居学, 家庭経営
技 術 科	一 製図, 木材加工, 金属加工, 機械, 電気, 栽培
職 業 科	一 職業指導, 産業概説, 農業, 工業
保健体育科	一 体育原理, 体育管理, 競技運動, 球技運動

〔教職に関する主な専門科目〕

教育原理, 教育史, 教育方法, 教育行政学
教育心理学, 発達心理学, 臨床心理学, 社会心理学
道德教育の研究, 各教科教材研究, 各教科教育法, 教育実習

〔特殊教育に関する主な専門科目〕

聾 教 育 科—聾教育、聾心理、言語指導の理論及び実際

養護学校教育科—障害児教育概説、障害児心理学、障害児病理学、障害児保健学

言語障害児教育学—養護学校教育科の科目のほかに言語病理学、言語障害学各論

〔教育職員免許状〕

各課程において取得できる教育職員免許状の種類は次のとおりである。

○小学校教員養成課程

小学校教諭一級普通免許状を取得することができる。なお、履修方法によっては、上記のほかに特定の教科の中学校教諭二級普通免許状又は幼稚園教諭一級普通免許状取得の可能性もある。

○中学校教員養成課程

専攻する教科の中学校教諭一級普通免許状及び高等学校教諭二級普通免許状を取得することができる。なお、履修方法によっては、上記のほかに、特定の教科の中学校教諭二級普通免許状又は小学校教諭二級普通免許状取得の可能性もある。

○高等学校教員養成課程

高等学校教諭二級普通免許状（保健体育）及び中学校教諭一級普通免許状（保健体育）を取得することができる。

○聾学校教員養成課程

聾学校教諭一級普通免許状及び小学校教諭一級普通免許状を取得することができる。

○養護学校教員養成課程

小学部は養護学校教諭一級普通免許状及び小学校教諭一級普通免許状を取得することができる。

中学部は養護学校教諭一級普通免許状並びに専攻する教科の中学校教諭一級普通免許状及び高等学校教諭二級普通免許状を取得することができる。

○言語障害児教育教員養成課程

養護学校教諭一級普通免許状及び小学校教諭一級普通免許状を取得することができる。

○特別教科（保健体育）教員養成課程

中学校教諭一級普通免許状（保健体育）及び高等学校教諭二級普通免許状（保健体育）を取得することができる。なお、履修方法によっては、上記のほかに、特定の教科の中学校教諭二級普通免許状又は小学校教諭二級普通免許状取得の可能性もある。

◆専攻科

特殊教育特別専攻科 言語障害教育専攻 定員 30 名

◆大学院（修士課程）

定員

教育学研究科	学校教育専攻	10名	理科教育専攻	8名
	国語教育専攻	5名	保健体育専攻	8名
	社会科教育専攻	9名	英語教育専攻	5名
	数学教育専攻	5名	障害児教育専攻	5名
			計	55名

法 学 部

本学部は、昭和24年金沢大学法文学部の法学科として創設されて以来、逐年充実され、昭和55年4月法学科を拡充し法学部として発足した。法学部には、法学科が設けられている。

なお、昭和46年に大学院法学研究科（修士課程、法律学専攻、現定員15名）が設置されているが、法学部の発足に伴い、さらに整備充実が進められる計画である。

卒業生については、司法試験合格者は創設以来すでに100名を越し、近時の合格者数は、国立大学中の上位に位置する状況である。また、国家公務員、地方公務員になる者は、近年30%余に上り、金融機関をはじめ民間一流企業への進出もいちじるしい。

I 講座組織……大講座制の採用

近時、公法や私法などの基幹的分野においてはもとより、経済法、社会保障法あるいは国際関係など新しい学問分野の発展もあり、法律学、政治学の専門的領域は、従前と比較し得ないほど格段に広範かつ多岐にわたっている。法学部においては、かかる研究教育領域の拡大深化と多様化に実質的に対応して十分な機能を発揮するため、研究教育体制については、大講座制を採用した。これは、従来の小講座が研究教育その他種々の面で、隣接講座との横のつながりに欠ける一面があったのを是正し、法学の高度の専門的研究教育とともに、総合性、多様性にも耐え得るものとして、法学の研究教育の水準を高めることを目的としている。

法学部においては、かかる観点から、下記の各特色を有する四つの大講座を置くとともに、主たる授業科目を開講している。

1. 公法大講座

憲法、行政法、国際法、刑法、刑事訴訟法、刑事学の各研究教育領域をおおう大講座である。

〔主な授業科目〕

憲 法 第 一 部	憲 法 第 二 部	外 国 公 法	行 政 法 第 一 部
行 政 法 第 二 部	行 政 法 第 三 部	行 政 学	国 際 法 第 一 部
国 際 法 第 二 部	国 際 組 織 法	刑 法 総 論	刑 法 各 論
刑 事 訴 訟 法	刑 事 政 策	特 別 刑 法	犯 罪 学
比 較 刑 事 法	各 演 習 等		

2. 民事法大講座

民法、商法、経済法、民事訴訟法、労働法、社会保障法の各研究教育領域をおおう大講座である。

〔主な授業科目〕

民 法 総 則	物 権 法・担 保 物 権 法	債 権 法 総 論	債 権 法 各 論
親 族 法・相 続 法	商 法 総 論	会 社 法	商 行 為 法
手 形 法・小 切 手 法	保 険 法・海 商 法	経 済 法 第 一 部	経 済 法 第 二 部
国 際 私 法	民 事 訴 訟 法 第 一 部	民 事 訴 訟 法 第 二 部	民 事 執 行 法
倒 産 法	労 働 法 原 理	労 働 団 体 法	労 働 保 護 法
社 会 保 障 法 総 論	社 会 保 障 法 各 論	雇 用 保 障 法	各 演 習 等

3. 基礎法大講座

法理学、法制史、比較法の各研究教育領域をおおう大講座である。

〔主な授業科目〕

法 理 学 日 本 法 制 史 西 洋 法 制 史 東 洋 法 制 史
比 較 法 法 法 思 想 史 各 演 習 等

4. 政治国際関係大講座

政治学、政治思想史、国際政治論の各研究教育領域をおおう大講座である。

〔主な授業科目〕

政 治 学 原 論 政 治 過 程 論 政 治 思 想 史 国 際 政 治 史
国 際 関 係 論 政 治 社 会 学 各 演 習 等

II 教育体制……二履修コース制と選択的論文指導制度の採用

法学部においては、主として法律関係の科目を必修又は選択必修とするコースⅠと、主として政治及び公法関係の科目を必修又は選択必修とするコースⅡの二つの履修コース制が設けられている。また、学生の志向の多様化に対応するとともに、より綿密な個人的指導による密度の高い教育効果を得るため、選択的論文指導制度を採用する。この二履修コース制、各科目の演習、選択的論文指導制度の活用によって、バランスのとれた専門教育であるとともに、多様化した学生の志向にも対応したきめ細かな専門教育の実をあげ得るよう配慮されている。

◆教育職員免許状

卒業に必要な単位のほかに、所定の「教職科目」等を履修した者は、次の種類・教科の教育職員免許状を取得することができる。

高等学校教諭二級普通免許状 社会

中学校教諭一級普通免許状 社会

◆大 学 院（修士課程）

法 学 研 究 科 法 律 学 専 攻 定 員 15 名

経済学部

本学部は昭和40年に金沢大学法文学部経済学科として発足し、昭和55年4月に法文学部の改組・拡充にともなって創設された若々しい学部である。学部は1学部1学科制で経済学科が置かれている。

なお、昭和59年に大学院経済学研究科（修士課程、経済学専攻、入学定員9名）が設置されたが、大学院の創設に伴い、さらに整備充実が進められる計画である。

経済学部は、現代社会を社会経済的な側面から科学的・総合的にとらえるための社会経済諸科学の学問領域を研究教育することを任務としている。とくに複雑な構造をもち、変化の激しい現代社会にあって、この社会の担い手としてますます求められている社会経済的専門知識を身につけた人材を養成する。

学生には、教養部における一般教養教育を土台にして、専門講義の自発的受講、演習や外国経済書講読での教官や学生相互の自由なディスカッションをつうじて、経済学の学識を深めるだけでなく、広く大学人としての陶冶をおこなう機会が与えられている。

卒業生については、主として民間の企業や銀行で活躍している。国家公務員、地方公務員、公認会計士になる者も、あるいは教員免許状を取得して、中学校・高等学校社会科教員として教育界に進出している者も少なくない。

本学部経済学科には、研究組織として五つの大講座がおかれており、それぞれの大講座には特色のある多様な授業科目が開講されている。

現在、学生は三つの履修コース（経済理論コース、経済政策コース、経営コース）のいずれか一つを自主的に選択して、これらの授業科目を受講できるようになっている。

1. 理論・計量経済学大講座

社会のいろいろな経済現象は、複雑な形態をとって相互に関連しているが、それを整理して体系的に関連づけるためには経済学の基礎理論と計量的方法とが必要である。このような基礎理論と計量的分析とをもってますます複雑になる経済現象を体系的に究明するのがこの大講座である。

〔主な授業科目〕

経 済 原 論 経 済 変 動 論 現 代 経 済 理 論 近 代 経 済 学
計 量 経 済 学 統 計 学 総 論 数 理 統 計 学 経 済 統 計 学
経 済 数 学

2. 経済史学大講座

経済学は広義の歴史科学であり、経済史学は、歴史認識を媒介とする経済学研究にバトンを渡す地位をしめる。この大講座では、歴史学における理論と実証を介して、日本およびヨーロッパに局限されることなく、世界史的認識にたちながら、経済学の成立過程を追求し、各国国民経済社会の歴史的生成とその展開を研究する。

〔主な授業科目〕

西 洋 経 済 史 日 本 経 済 史 一 般 経 済 史 中 国 経 済 史
現 代 日 本 経 済 史 経 済 学 史 経 済 思 想 史 社 会 思 想 史

3. 応用経済学大講座

社会の経済現象を財政、金融、社会、労働、国際関係などの各分野においてそれぞれの領域の理論と現実の両面から研究するのがこの大講座である。基礎理論ならびに経済史学の応用としての性格をもっている。

〔主な授業科目〕

財政学総論	日本財政論	地方財政論	金融経済論
国際金融論	金融制度論	国際経済学	貿易論
世界経済論	社会政策論	社会保障論	労働経済論
労働運動史			

4. 経済政策学大講座

経済学の基礎理論、経済史学、さらに応用理論をも前提として、現代の経済社会における諸問題の科学的・合理的対策の方法と体系を確立する任務をもっている。とくにこれまで軽視されてきた地域経済、環境問題、消費生活問題など国民の生活に密着した分野の研究にもとりくむ。

〔主な授業科目〕

経済政策論	農業経済論	地域経済論	環境経済論
消費経済論	計画経済論		

5. 経営・情報科学大講座

経営学は産業社会における現実の企業を研究対象として体系化された学問である。企業の行動と政策、および情報処理にかかわる諸問題について、企業とそれをとりまく社会経済的環境との関連のもとに、理論的、歴史的、実証的に研究する。

〔主な授業科目〕

経営学総論	経営機械化論	経営管理論	企業論
会計学原理	会計監査論	管理会計論	機械化会計
簿記原理	情報処理論	システム理論	経営工学
工場計画			

◆教育職員免許状

卒業に必要な単位のほかに、所定の「教職科目」等を履修した者は、次の種類・教科の教育職員免許状を取得することができる。

高等学校教諭二級普通免許状	社会
中学校教諭一級普通免許状	社会

◆大学院（修士課程）

経済学研究科	経済学専攻	定員 9名
--------	-------	-------

理 学 部

本学部は、昭和24年5月金沢大学の創設に伴い、旧第四高等学校及び旧金沢高等師範学校を母体として、数学、物理学、化学、生物学、地学の5学科で発足した。

その後、教育・研究の進展とともに臨海実験所、低レベル放射能実験施設等の附属施設が設置され、講座数もすでに29に及んでおり、また昭和38年には大学院理学研究科修士課程（5専攻）が設けられるなど逐年整備充実が進んでいる。

なお、コンピューター利用の増加に伴い、共通科目として電子計算機基礎論（実習を含む）が開講されている。

数 学 科

数学科は、数学解析、函数論、代数学、幾何学、応用数学、函数方程式の6講座から構成され、多方面にわたり数学の基本的な事柄や一般の理論の研究並びに教育が行われている。本学科では研究、勉学のために図書室の充実と整備及びその運営には特に力を入れており、単行本は和書洋書合わせて15,000冊以上、論文雑誌は国内国外発行のもの合わせて300種類以上に及んでいる。

学生に対しては必修科目として位相数学、函数論、代数学、幾何学、実解析等の講義並びに演習が、学部へ進学した2年後期より3年前期にわたり行われる。これらは基本的で将来の発展に役立つ最小限度のものであるが、これだけでは内容が単調になったりかたよったりすることを考慮し、3年次と4年次にはいくつかの選択講義が行われている。また、4年次には各セミナーに分かれて輪講を行っている。

〔主な授業科目〕

数学通論、代数学、幾何学、解析学序論、函数解析学、実解析、函数論、数学講究、整数論、統計数学、函数方程式論

以上の他に各講座に一つずつ特論が開講されている。

物 理 学 科

物理学科では、自然科学の基礎である物理学の基本的事項を修得し、将来基礎科学の分野を支え発展させる有為な人材を育成することに力をそそいでいる。専門課程では、この目的にそうよう学生は古典力学から始まり、量子力学、熱力学・統計力学、電磁気学等の講義と演習、現象を観測、検証する物理学実験等の科目を3年末までに履修し終り、この期間で物理学の体系についての手ほどきを受ける。最終学年では選択科目の履修とともに、各講座に配属され、それぞれの課題研究（実験やセミナー）において教官とひざを交えた教育をうける。このようにして基礎的学習の一層の充実と、さらに分化発展しつつある諸分野での専門知識と活用力を身につける。

物理学科には理論系として素粒子論、核物理、物性理論、実験系として結晶物理、物性物理、プラズマ物理、分子物理の各講座がある。理論系では素粒子論、時空構造、相転移や液体についての統計力学の理論や計算機実験等の研究、実験系では半導体・誘電体の物性、生命の起源と生体分子進化、核融合にも結びつくプラズマやイオン加速、レーザー及び核磁気共鳴による分子や個体の構造等についての実験研究と教育が進められている。

学生の進路は上記の学習が生かされるような、大学院研究科への進学、企業における開発研

究の部門や教育界への進出が主なものである。

〔主な授業科目〕

物理実験学、力学、電磁気学、熱力学・統計力学、物理数学、量子力学、流体力学、量子光学、原子物理学、素粒子論、物性物理学、生物物理学、プラズマ物理学、宇宙物理学

化 学 科

我々の身体をはじめ周囲のすべての物質、さらに自然界を構成するすべての物質の本質とそこにひそむ基本原理を学ぶのが化学であり、化学科は化学の最も基礎的な分野を学ぶ学科である。現代の化学はめざましい発展を遂げ、その研究分野の細分化が進んでいるが、本学科はそれに対応する7講座で構成され、整備された設備と充実した教官のもとで学生の教育と研究が行われている。

教育面においては2年生後期から始まる専門教育で1か年半の講義(29科目)と基礎実験(7科目)を通じ、今日の化学全般にわたる基礎学習が行われ、4年生の1年間はそれぞれ希望する講座に配属して自主的な勉学態度と創造的能力の養成に重点をおいた指導のもとに課題研究と文献指導が活発に行われている。

研究面においては分子構造、分子理論の研究(理論化学講座)、天然有機化合物の合成、有機合成反応の研究(有機化学講座)、無機化合物(主として金属錯体)の合成と化学反応、物性の研究(無機化学講座)、物質の分離、分析法、環境化学の研究(分析化学講座)、酵素、タンパク質化学の研究(生物化学講座)、核化学と原子核反応がかかわる宇宙地球化学・環境放射能の研究(放射化学講座)、遷移金属錯体の合成とその構造、反応性、光学活性に関する分光学的研究(錯体化学講座)などを中心とする創意に満ちた特色ある研究が活発に行われ顕著な業績をあげている。また他大学や本学の他学部、学科ならびに附属施設(低レベル放射能実験施設、アイソトープ総合センター、計算機センター等)を利用した教育研究も盛んに行われている。本学科の卒業生は本学または他大学の大学院に進学する者も多く、また一方では巾広く化学関連産業分野、官公庁において研究者、技術者として進出し活躍している。

〔主な授業科目〕

理論化学、有機化学、無機化学、分析化学、生物化学、放射化学、錯体化学、化学文献指導、化学課題研究、各科目にわたる実験

生 物 学 科

生物学科は、現在5講座からなるが、これを大きく二つの系列に分けることが出来る。一つは植物生理生化学、動物生理化学及び発生生物学の諸講座に示される生理・生化学的学問の分野であり、いま一つは植物分類地理学及び生態学講座で示される自然史的学問の分野である。

近年の高分子化学や生化学の発展は、生命現象を分子のレベルで解明する道を開き、分子遺伝学を頂点とする新しい生命科学の展開をみているが、このような方向に沿ったのが前者の講座群である。一方生物学で忘れてならない方向として、自然の観察に始まる自然史的研究分野がある。これは、自然状態での生物の形態あるいは生態について、観察・実験の精度を高め、また系統について比較考察することによって生物を把握しようとするもので、このような方向に沿ったのが後者の講座群である。このように本教室は、現代生物学をバランスよく取り入れて構成されており、講義・演習や実習も変化に富み、恵まれた環境の中で勉学が出来る。さらに、能登半島に理学部附属臨海実験所があり、海産生物の実習、研究が行われ、また大学キャンパ

ス内に植物園があって、実験材料としてのみならず、研究にも利用されている。

〔主な授業科目〕

植物分類・地理学、生態学、植物分類・地理学野外実習、植物生理学、系統動物学、生態学野外実習、生体エネルギー論、遺伝学、生物学文献指導、動物生化学、動物生理学、生物学課題研究、発生生物学、臨海実習

地 学 科

地学科では、固体地球科学の諸分野に関する基礎的な研究と教育が行われている。最近の地球科学の急速な進歩に対応して、地質学・鉱物学分野に加えて、地球物理学・地球化学・海洋科学などの諸分野をも包含し、野外の調査研究は勿論、各種機器による分析と解析や計算機の利用など、近代的な研究手法が日常的に行われ、理学部の他教室や附属施設、並びに国の内外の諸研究機関との交流も密接である。現在は、鉱物学・地殻化学・地質学・物理地学の4講座から成っている。

主な研究課題としては、天然産並びに合成鉱物の結晶構造や生成条件、岩石の産状・鉱物構成・化学組成とその成因に関する研究、岩石圈及び水圏(海洋)と生物圏との相互作用によって生ずる堆積層の成因と生成後の変化過程に関する研究、大地構造論・プレートテクトニクス・重力と地下構造・高温高压下の岩石物性に関する研究などがある。

〔主な授業科目〕

鉱物学、X線結晶学、鉱床学、岩石学、岩石成因論、層位・古生物学、堆積学、一般地質学、構造地質学、応用地質学、地球物理学、地球発達史、地学野外実習、地学演習、地学巡検、地学文献演習、地学課題研究

◆教育職員免許状

卒業に必要な単位のほかに、所定の「教職科目」等を履修した者は、それぞれの教科について次の種類の教育職員免許状を取得することができる。

高等学校教諭二級普通免許状 } { 「数 学」… (数学科, 物理学科)
中学校教諭一級普通免許状 } { 「理 科」… (物理学科, 化学科, 生物学科, 地学科)

◆大学院(修士課程)

定員

理学研究科	数 学 専 攻	12名	生 物 学 専 攻	10名
	物 理 学 専 攻	14名	地 学 専 攻	8 名
	化 学 専 攻	14名	計	58名

医学部

医学部の前身は、遠く旧前田藩時代の文久2年3月の彦三種痘所にその源を発し各学部中最も古い歴史をもっている。慶応3年の養生所、明治3年の医学館、明治12年金沢医学校、明治17年文部省指定石川県甲種医学校、明治20年第四高等学校医学部、明治27年第四高等学校医学部、明治34年金沢医学専門学校、大正12年金沢医科大学と幾多の変遷を重ね、昭和24年金沢大学の創設により医学部となり、附属病院、神経情報研究施設及び動物実験施設等の附属施設を有して現在に至っている。

医学部の修業年限は、医学進学課程は2年、専門課程は4年である。専門課程における4年間は、小立野の医学部と附属病院で前2年間に主として基礎医学を、後2年間に主として臨床医学の専門教育を行う。

前2年間における基礎医学の学修は人体の構造組織・生理機能の正常状態を観察し、それが病的状態ではいかなる変化を起こすかを学び、またそれらの病的変化を起こす原因となる化学物質や微生物、更にその病的状態を正常化する薬物などの基礎的知識を学ぶ。また特に系統解剖学実習は、故人の意志と遺族の善意によって医学教育のために献体されたものにより行われる。後2年間における臨床医学は、基礎的知識をもとにして実際に外来・入院の患者について指導を受け、討論を行うことによって臨床知識や経験を積み重ねる。いずれにしても医学教育は、人間の生命を扱い人権問題にからむ特殊条件を含むため、医学を志望する者はこの点十分留意する必要がある。

6年間の課程を修了した者は医学士の称号が授与され、卒業後、医師国家試験に合格することにより医師の免許が得られる。

〔主な授業科目〕

解剖学、生理学、生化学、薬理学、病理学、微生物学、寄生虫学、衛生学、公衆衛生学、法医学、内科学、神経精神医学、小児科学、放射線医学、核医学、皮膚科学、外科学、整形外科科学、脳神経外科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、産科婦人科学、麻酔学、歯科口腔外科学、特別講義（年度ごとに定める）

◆大学院（博士課程）		定員	
医学研究科	生理系専攻	25名	内科系専攻 17名
	病理系専攻	11名	外科系専攻 19名
	社会医学系専攻	6名	計 78名

薬学部

薬学部の歴史は、医学部とともに極めて古く、旧加賀藩時代の慶応3年、養生所舎密局が設けられた時に源を発し、幾度かの変遷を経て、大正12年に金沢医科大学附属薬学専門部となり、昭和24年5月金沢大学創設とともに薬学部として発足した。

さらに昭和41年、従来の薬学科に加えて製薬化学科が増設され、2学科制として今日に至っている。また、昭和39年に大学院薬学研究科（修士課程）、昭和60年には同（後期3年博士課程）が設置された。

薬学部は、人間の科学としての薬学の領域における研究と教育をその使命としている。教育面では薬の基礎的研究、創製と生産、あるいはその管理にたずさわる研究者及び技術者の養成を目標にしている。

最近の薬学は有機化学、生物化学、物理化学を基礎として、薬及び人間の健康を中心にした物質と、人間及びその環境にかかわる自然のすべての分野におよんでいる。

薬学部は次の2学科13講座からなっている。講座及び主な授業科目は次のとおりであるが、学生はいずれの授業科目をも受講することができる。また、薬用植物園研究施設があり、研究・教育に利用されている。

〔講 座〕		〔主な授業科目〕	
薬 学 科	薬 学	薬 学	有機化学、無機化学
	薬 品 分 析 学	薬 品 分 析 学	分析化学
	生 化 学	生 化 学	生化学
	生 薬 学	生 薬 学	生薬学、天然物化学
	薬 物 学	薬 物 学	薬理学、毒性学
	微 生 物 薬 品 化 学	微 生 物 薬 品 化 学	微生物学、応用微生物化学
	衛 生 化 学	衛 生 化 学	衛生化学、公衆衛生学
	製 薬 化 学 科	製 薬 化 学 科	無機及び有機製造化学
	製 剤 学	製 剤 学	薬剤学、製剤学
	薬 品 物 理 化 学	薬 品 物 理 化 学	物理化学、分子構造論
	薬 品 合 成 化 学	薬 品 合 成 化 学	合成化学、有機化学
	生 物 薬 品 化 学	生 物 薬 品 化 学	生化学、分子生物学
	放 射 薬 品 化 学	放 射 薬 品 化 学	放射化学、放射線生物学

その他薬学概論、基礎医学、臨床化学、局方概論、薬用植物学、高分子化学などがある。なお、上記の主な授業科目は実習を伴っており、さらに卒業研究（約10か月）がある。

前記いずれの学科の卒業生も薬剤師国家試験受験資格を有し、合格者は薬剤師となることができる。

また、卒業後の主な就職先としては、製薬、化学工業関係、研究所、病院、薬局関係等がある。

◆教育職員免許状

本学部は学科課程の関係上教職科目の履修は困難である。

◆大学院（修士課程）

		定員	
薬学研究科	薬 学 専 攻	14名	製薬化学専攻 12名 計 26名

◆大学院（博士課程）

		定員	
薬学研究科	生 命 科 学 専 攻	9名	

工 学 部

60余年にわたる歴史を有する本学部は、日本海側の中心都市金沢の南東部、小立野台地にあり、静かな環境に恵まれている。本学部は土木建設工学、機械工学、機械工学第二、生産精密工学、工業化学、化学工学、電気・情報工学の7学科で構成されている。最近の工学は、一方では各専門分野の極度の専門化による発展と、他方では理学と工学、並びに工学各専門分野の相互作用による進歩とがあることを認識し、本学部では絶えずカリキュラムの内容刷新に努力し、学生諸君に新しい工学の基礎と、応用展開能力を身につけてもらうよう努力している。学部卒業後、大学院に進学して、さらに高度の学問を修め、研究を行う道も開かれている。各学科内容は次のとおりであるが、授業科目については要点のみ掲げる。

土木建設工学科

土木建設工学科は、60有余年の伝統をもつ土木工学科と昭和50年に都市環境を軸として新設された建設工学科とが、新時代に対応するため昭和60年度に統合再スタートした学科である。

さて、土木建設工学は、人類の文化を支え、近代文明を推進してきた最も歴史の古い学問であり、かつ、安全で快適な国土づくり・都市づくりに寄与する技術者を育成することにより、未来の豊かな人間社会を築くための原動力となる学問である。それゆえ、土木建設工学は人間の生活に密着した学問として、自然科学、社会科学、人文科学等のあらゆる分野と深い関連をもちながら、広範囲かつ精緻に発展してゆかねばならない総合的工学である。

この認識に立ち、本学科では、近年社会的あるいは技術的にその必要性が高まっている土木建設系技術分野の拡充と発展、ハードとソフトの分野および他の工学分野との連携を進めることにより、国土整備、資源開発、都市建設、運輸交通施設、環境保全、災害防止、居住環境整備、景観整備など、大地と海洋と人間社会を対象とした施設構造物の計画、設計、建設、運営、管理にたずさわる技術者の育成を行い、行政官(政府各省庁、各地方自治体)、公団・公社の技術者、建設業技術者、コンサルタント、教育者、研究者等へと進む人材を養成している。

本学科は、構造工学、水工学、地象工学、都市施設計画学、環境衛生工学の5大講座で構成され、広い視野と広範な応用能力を持つ技術者の教育と養成を行っている。

〔主な授業科目〕

構造力学、水理学、土質力学、移動現象論、測量学、土木材料学、鉄筋コンクリート工学、建設機械施工学、基礎及び土構造学、岩盤力学、橋梁・鋼構造学、河川・水文学、海岸・港湾工学、上下水道学、水質工学、道路及び鉄道工学、耐震耐風工学、防災工学、応用振動学、都市及び地域計画学、交通施設計画学、建設計画学、環境装置、景観工学、電子計算機プログラミング、土木建設工学設計法、土木建設工学実験、卒業研究

機械工学系学科

機械工学系学科は、例えば自動車や航空機などの交通輸送機械、クレーンやブルドーザなどの作業機械、ポンプやタービンなどのエネルギー変換機械、マイクロコンピュータを組合せた工作機械のような各種機械のほかこれらの基本構成要素の設計と製造に関する広範な工学分野を対象として研究と教育にあたり、新時代の要望に応え得る機械技術者を養成することを目的としている。卒業者は機械工業のみならず電気や化学などあらゆる工業界で多数活躍している。

機械工学科は弾性工学、機械力学、熱工学、流体工学、金属材料、繊維工学、塑性加工の7

講座で、機械工学第二学科は工作機械、材料力学、熱機関、流体機械の4講座で構成されているが、機械工学の諸分野が広範囲にわたるため、両学科は密接に協力し、講義、実験、卒業研究などすべての授業を両学科共通に行っている。

〔主な授業科目〕

材料力学、設計工学、機構学、機械力学、熱力学、熱移動、熱機関、流れ学、流体機械、金属組織学、金属材料、高分子材料、繊維機械工学、塑性力学、材料強度及び試験、塑性加工、機械工作、工作機械、自動制御、機械設計製図、機械工学実験、機械工作実習、電子計算機プログラミング演習、卒業研究

生産精密工学科

生産精密工学科は、従来の精密工学科を改組・拡充して昭和58年度に創設されたものである。精密工学はパワーよりもむしろ精度を生命とする機械の設計・製造・応用を対象とする広領域の学問分野であるが、このうち生産技術に関する教育・研究にその主要な目標を設定したのが生産精密工学科である。そのため、本学科は、産業用ロボットなどメカトロニクス技術を中心とする自動機械システム、および、新素材や加工法、表面工学などを主な対象とする生産技術の二つの大講座によって編成されている。また、前者は「精密システム創造学」「ロボット及び自動機械」「計測・制御工学」の3分野、後者は「生産加工学」「精密システム材料学」「トライボロジ」の3分野によって構成され、合計6分野により、各分野の有機的な連携を計りながら運営されている。

〔主な授業科目〕

精密機器設計学、動的設計論、製品設計工学、メカトロニクス概論、ロボット工学、自動機械計測システム、精密測定学、計測工学、自動制御、基礎加工学、システム加工学、精密加工学、材料機能学、材料設計学、トライボロジ基礎、応用トライボロジ、固体潤滑工学、計算機プログラミング演習、設計計画、生産精密工作実習、生産精密工学実験、卒業研究

工業化学科

工業化学科は、化学に関する基礎的学問を修め、化学工業における技術者及び研究者としての基礎力を培う学科である。化学はあらゆる「もの」の本質を扱う学問であり、今日ではわれわれの実生活にますます深くかかわっている。たとえば、プラスチック、繊維、紙、化学薬品、医薬品、食品をはじめ、農水産、土木建築、医療保健に欠くことのできなくなっている各種素材、また先端産業を担う半導体、ニューセラミックス、光ファイバーなど各方面に化学工業の産物として浸透し、生活を支えている。これら産物の加工や改良、環境汚染や公害防止、各種エネルギー利用、バイオテクノロジーなども化学技術者の重要な仕事である。

本学科の卒業生は化学工業の分野ばかりでなく、電気・電子、コンピューター、医療などの新しい分野をも含む境界領域の産業および官公庁にも進出している。このような時代の要請に適應できる創造的能力をもった学生を養成するために、基礎科目、実験、ゼミナールなどに重点をおいて密度の高い教育を行っている。なお、本学科は物理化学、無機工業化学、高分子化学、有機工業化学、有機合成化学、工業分析化学の6講座で構成されている。

〔主な授業科目〕

有機化学、物理化学、分析化学、無機化学、高分子化学、理論有機化学、電気化学、有機機

器分析, 安全工学, 分析化学実験, 工業化学実験, 工業化学演習, 工業化学輪講, 卒業研究

化学工学科

化学工学科は、「物質の組成あるいは性質を変化させるプロセスに関する工学」と定義される工学の基礎的分野の一つである。私達に身近な化学製品を工業的に生産するには、目的とする化学反応ばかりでなく、原料や最終製品の分離、精製、廃棄物処理などの一連の工程（プロセス）が必要となる。本学科では、このようなプロセス工業全体に共通な原理・原則を一つの学問体系として教育し、プロセス全体を統一的に取り扱うことのできる化学技術者（Chemical Engineer）を養成することを目的としている。現在、化学技術者の活躍している分野は化学工業をはじめ多くの業種にわたっている。

最近とくに大きな社会問題となっている公害防止と環境保全、食品加工、バイオマス、さらに原子力、太陽熱、石炭の液化等のエネルギー利用に関する工学的技術の開発と実用化は化学技術者に負うところが多い。

なお、本学科は化学工学基礎、拡散工学、機械的操作、反応工学、伝熱操作の5講座で構成されている。

〔主な授業科目〕

化学工学概論、伝熱工学、流体工学、化学工学計算法、化学工学基礎製図、移動速度論、化学工学熱力学、反応速度論、化学装置設計法、化学工学プログラミング演習、化学工学数学、プロセス制御、粉体工学、反応工学、装置工学、化学工学実験、化学工学セミナー、卒業研究

電気・情報工学科（電気・電子・情報系）

電気・情報工学科は、従来の電気工学科と電子工学科を昭和59年度に統合改組した学科である。近年におけるエレクトロニクスや電子計算機を中心とした技術革新は、急激な進展を示し、新しい産業構造や社会形態を作り上げて来ている。本学科は、これらの最新技術文化を効率よく教育し、かつ独創的研究を促進するため、電気工学・電子工学・情報工学の各分野を包含した総合的学科として再編成したものである。3年次までは各分野共通の基礎的学問を重点的に修得し、3年次後半からは各自の希望に応じて学問分野を選択できる。卒業研究は教官の指導のもとに行っており、大学院生と共同で世界先端の研究テーマに挑む学生も少なくない。本学科の一つの特色は研究活動が活発なことであり、半導体物性、半導体素子、半導体レーザと光通信、デジタル計算機システム、情報処理、自動制御システム、ロケットを利用した電離層観測、超音波やマイクロ波およびレーザを応用した計測、光ファイバーによる計測及び通信、電力伝送および電力変換などの分野で幾多の研究成果をあげて来ている。卒業生は、電気、電子、情報産業を中心に広い分野で活躍している。

なお、本学科は、電子物性、電子デバイス、電子回路、計測・制御、電気エネルギー、計算機工学、情報伝送の7大講座で構成され、本学科に関連した電気エネルギー変換実験施設も工学部に附置され、総勢25名の教授、助教授、講師陣によって運用されている。

〔主な授業科目〕

電気回路、電磁気学、電子回路、電磁測定、量子力学、電子物性、電子デバイス工学、電気電子材料、集積回路工学、量子電子工学、制御理論、医用電子工学、電気エネルギー発生・

変換、電気機器学、高電圧工学、電子計算機、計算機言語論、知能情報処理、電波工学、光・マイクロ波工学、通信方式、電気・電子・情報工学実験、卒業研究

統合・改組計画の「物質化学工学科」の概要は、次のとおりである。

物質化学工学科

化学工業界における技術革新のすう勢は、機能性素材の開発、エネルギーの有効利用、化学プロセスの高効率化等、フライング化への指向を強めつつある。統合・改組の趣旨は、この状況に対応するため、既設の工業化学科と化学工学科を統合し、物質の構造や挙動の解明を目的とする基礎分野から素材、エネルギー、環境までの諸問題を扱う広い学問領域を包含した物質化学工学科に改組して科学技術の進歩に適応するとともに、幅広い視野をもつ技術者、研究者の養成と教育研究の進展を図ることにある。

なお、統合・改組後は、物質解析、状態解析、物質変換、分離混合プロセス、応用材料、エネルギー・環境の6大講座で構成されることが計画されている。

共通講座（基礎工学教室）

本学部には、以上の各学科に共通する基礎科目を担当する講座として、工業数学、工業物理学、情報処理工学、数理工学、複合材料科学の5講座がある。

〔主な授業科目〕

工業数学及び演習、応用物理学及び実験、力学及び演習、原子核工学、情報数学概論、情報処理工学概論、計算機構概論、数値解析、数理計画学、数理統計、複合材料科学、品質管理

◆教育職員免許状

工業教員養成課程の学生は各学科ともそれぞれ所定の授業科目を履修することは他の学生と同じであるが、職業指導4単位を必ず履修しなければならないので、これにより高等学校教諭二級普通免許状（工業）が取得できる。（卒業後教員になる義務はない。）

工業教員養成課程以外の者でも入学後、職業指導4単位を履修した者は、高等学校教諭二級普通免許状（工業）が取得できる。

◆大学院（修士課程）

		定員		
工学研究科	土木工学専攻	10名	精密工学専攻	8名
	機械工学専攻	14名	電子工学専攻	8名
	工業化学専攻	10名	機械工学第二専攻	8名
	化学工学専攻	10名	建設工学専攻	8名
	電気工学専攻	12名	計	88名

学 生 生 活

1 入 学 料

入学科は150,000円であり、入学手続きの際に徴収する。

入学科免除に関する取扱いについて

(1) 入学前1年以内(昭和60年4月から昭和61年3月までの間)に学資を主として負担している者が死亡した場合又は学資を主として負担している者が風水害等の災害を受けたことにより、入学料の納付が著しく困難であると認められる者。

(2) 上記(1)に準ずると大学長が認める者。

上記(1)及び(2)の事由に該当するものは、願い出により入学料の全額又は半額が免除されることがある。希望する者は、あらかじめ昭和61年3月8日までに直接「学生部厚生課厚生係」(〒920:金沢市丸の内1番1号)あてに住所・氏名・郵便番号を記入した返信用封筒(定形の封筒に60円切手をはったもの)を添えて入学料免除願書を請求すること。

なお、入学料免除手続きについて、不明な点がある場合は厚生課厚生係(0762)62-4281内線286まで連絡のこと。

2 授 業 料

授業料は年額252,000円であり、2期に分けて徴収する。

なお、経済的事情によって授業料を納付することが困難で、かつ学業成績が優秀な者には、願い出により選考のうえ、その期の授業料の全額又は半額を免除する制度がある。

また事情によっては、願い出によりその期の終りまで徴収を猶予し、又は月割分納を許可することもあり、更に風水害などの特別の理由で授業料納入が困難な場合にも授業料が免除されることがある。

3 入学当初に要する経費

- (イ) 入学科 150,000円
- (ロ) 授業料 1期分126,000円
- (ハ) 学生健康保険組合費 4年分8,000円(医学部は6年分12,000円)
- (ニ) 学生教育研究災害傷害保険掛金
 - 文学部, 教育学部, 法学部, 経済学部 (4年分) 1,150円
 - 理学部, 薬学部, 工学部 (4年分) 2,900円
 - 医学部 (6年分) 4,050円

4 教科書代等

教科書代は、当初15,000円~20,000円程度必要であるが、理科系学部では実習用器材等の購入のため更に6,000円~8,000円が必要である。

5 奨 学 制 度

日本育英会は、学業成績が優秀で、経済的理由により学資支弁の困難な学生に対し、選考のうえ、無利子貸与制度と有利子貸与制度の2本立てで、次のとおり奨学金を貸与する。

- 自宅通学 月額22,000円
- 自宅外通学 月額28,000円

本学では、全学生の約27%(昭和60年9月1日現在)の学生が日本育英会の奨学金の貸与を受けている。

なお、日本育英会のほか、地方公共団体、会社、財団などの奨学制度もある。

6 学 生 寮

本学には、北溟寮、泉学寮(以上男子寮)、白梅寮(女子寮)の3寮があり、いずれも鉄筋コンクリート4階建である。居室は一室2人収容で、各室とも机、椅子、ベッド、本棚等が設備されており、各寮とも食堂、自炊室、浴室、娯楽室、洗濯室等が完備している。収容人員は男子590人、女子164人、計754人であるが、新入生に対する募集は、男子約200人、女子約50人について行われる予定である。

1か月の寮生活費は、寄宿料300円、諸経費約16,000円(夕食費を含む)程度である。

入寮を希望する場合は、あらかじめ昭和61年2月17日から同3月8日までの間に、直接「学生部厚生課寮務係」(〒920:金沢市丸の内1番1号)あてに住所・氏名・郵便番号を記入した返信用封筒(定形の封筒に、60円切手をはったもの)を添えて入寮願書を請求すること。

7 下 宿

本学では、下宿、貸間の紹介をする。下宿料及び貸間料は、場所、部屋の状況によって異なるが、大体次のとおりである。

量	数	下宿料(2食付)	貸 間 料	備 考
4.5	畳	33,000~38,000円	9,000~13,000円	◎下宿は電気料別 ◎貸間は電気、ガス、水道料別
6	畳	35,000~42,000円	10,000~15,000円	
8	畳	37,000~42,000円	11,000~17,000円	

なお、下宿、貸間の数は、十分余裕があり、紹介は入学手続きと同時に行う。

8 アルバイト

学資の補助のためやむを得ずアルバイトを必要とする学生のために、アルバイトのあつ旋を行っている。ただし新入学生に対しては、学生生活になれるまでの約2カ月間は、あつ旋は行わない。

1日あたりの平均賃金は、事務4,000円~4,500円、軽労働4,000円~5,500円、重労働5,000円~7,000円、家庭教師は週2回で月20,000円~24,000円程度である。

9 学生健康保険組合

この組合は学生全員を組合員とし、組合員が病気又は負傷した場合、その医療費を相互に救済することを目的とするものである。組合費は前述3に示した額を納入するものとする。

なお、組合員が傷病により医療機関を利用した場合は、医療費の全額の30%以内を給付する。ただし年間を通じて1人40,000円を限度とする。(昭和60年9月1日現在)

10 学生教育研究災害傷害保険

この保険は、学生の互助共済の精神にのっとり、教育研究活動中に発生した急激かつ偶然な外来の事故によって身体に傷害を被った場合の傷害保険による補償制度である。

本学は、この保険に学生全員を加入させることとしており、掛金は前述3に示した額を納入するものとする。

なお、前項の学生健康保険組合の医療給付と併用することができる。

就 職 状 況

(昭和60年3月卒業者)

学部学科・課程		卒業生数		就職希望者数		就職決定者数		就 職 率		就 職 決 定 者 の 内 訳															
		性 別		性 別		性 別		性 別		大 企 業 中 企 業 小 企 業 官 公 庁 教 員 自 営 業 そ の 他															
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
文 学 部	行 動 科 学 科	18	13	11	9	11	9	100	100	3	1	3	2	1	4	3	2	1							
	史 学 科	23	6	13	4	13	4	100	100	6		1				2	2	4	2						
	文 学 科	22	35	14	28	14	28	100	100	7	1	4	2	2		1	11	14							
	計	63	54	38	41	38	41	100	100	9	8	5	6	3	6	5	5	16	16						
教 育 学 部	小学校教員養成課程	37	115	32	107	21	72	66	67		5		3		5		3	20	56					1	
	中学校教員養成課程	25	16	22	15	12	14	55	93					1	2			11	12						
	高等学校教員養成課程	18	1	16	1	11		69					3					8							
	聾学校教員養成課程	3	13	3	13	1	6	33	46									1	5						1
	養護学校教員養成課程	3	7	3	7	1	4	33	57									1	4						
	言語障害児教員養成課程	4	15	4	15	2	8	50	53									2	7						1
	特別教科(保健体育)教員養成課程	22	10	21	9	18	6	86	67		2			2	3			13	4						
	計	112	177	101	167	66	110	65	66		5	2	3	4	9	3	3	56	88					1	2
法 学 部	法 学 科	156	20	147	18	147	18	100	100	82	3	10	1		5	55	8		1						
	計	156	20	147	18	147	18	100	100	82	3	10	1		5	55	8		1						
経 済 学 部	経 済 学 科	162	7	156	6	156	6	100	100	104	4	18		3	26	2	4		1						
	計	162	7	156	6	156	6	100	100	104	4	18		3	26	2	4		1						
理 学 部	数 学 科	21	6	19	6	19	6	100	100	3		2	3					11	6						
	物 理 学 科	19	2	13	2	13	2	100	100	2		2		6	2	1		2							
	化 学 科	19	5	9	4	9	4	100	100	2		2		2	3	1		2	1						
	生 物 学 科	14	7	4	4	3	3	75	75			2				1			3						
	地 学 科	11	4	5	4	4	3	80	75	1	1	1		1	1		1	1							
	計	84	24	50	20	48	18	96	90	8	1	9		12	6	3	1	16	10						
薬 学 部	薬 学 科	13	32	3	30	3	29	100	97	2	9		3				8		1						9
	製 薬 化 学 科	25	17	9	16	9	15	100	94	5	5	1	1			2	3		1	1					5
	計	38	49	12	46	12	44	100	96	7	14	1	4			2	11		2	1					14
工 学 部	土 木 工 学 科	56		41		41		100		16		8		6		9			2						
	機 械 工 学 科	62		41		41		100		30		4		4		2			1						
	機械工学第二学科	37		31		31		100		25		4		2											
	工業化学科	41	8	25	7	25	7	100	100	12	3	11	4	1		1									
	化学工学科	36	2	26	2	26	2	100	100	19		5	2	2											
	電気工学科	47		25		25		100		16		6		2		1									
	精密工学科	39	2	27	2	27	2	100	100	21	1	2	1	3				1							
	電子工学科	41	1	28		28		100		22		6													
法 文 学 部	建 設 工 学 科	37	1	26		25		96		10		7		4		4									
	計	396	14	270	11	269	11	100	100	171	4	53	7	24		17		1		3					
	法 学 科	4		2		2		100		1						1									
	経 済 学 科	2		1		1		100				1													
	哲 学 科	5		2		2		100						1				1							
	史 学 科	1	1																						
	文 学 科	5		3		3		100											3						
	計	17	1	8		8		100		1		1		1		1			4						
合 計		1,028	346	782	309	744	248	95	80	382	39	99	21	47	26	112	30	97	115	6	1	1	16		

注：大企業は従業員500人以上、中企業は100人以上500人未満、小企業は100人未満

◎受験者の宿泊

大学では宿泊のあつ旋をしないので、受験者において確保されたい。

なお、下記であつ旋してくれるので、希望者は返信用封筒(切手貼付)同封のうえ2月20日までに照会されたい。(1泊2食6,500円、7,500円、ただし二人同室の場合20%割引、三人同室の場合30%割引)

金沢市旅館協同組合 〒920金沢市本多町3丁目10番26号 電話 (0762) 21-1147・63-3811

この学生募集要項を希望される方は、返信用封筒(角型3号、240円切手をはり付け、受信者の郵便番号、住所、氏名を明記したもの)を同封のうえ下記あてお申し込みください。

〒920 金沢市丸の内1番1号
金沢大学学生部入学主幹付入学試験係
TEL (0762) 62-4281 内線290

昭和 6 1 年度 金沢大学学生募集人員の変更 及び追加学生募集要項

本学の学生募集要項は、すでに発表したとおりであるが、その募集人員の変更並びに昭和 6 1 年度から工学部工業化学科及び化学工学科を「物質化学工学科」に統合・改組する計画に伴う追加学生募集要項は、以下のとおりである。

募集人員の変更

募集人員を下記のとおり変更する。

記

1. 変 更 の 内 容

学 部 ・ 学 科		当初の募集人員	変更後募集人員
理 学 部	数 学 科	30 名	→ 35 名
	物 理 学 科	25 名	→ 30 名
	生 物 学 科	20 名	→ 25 名
	地 学 科	20 名	→ 25 名
	計	95 名	→ 115 名
工 学 部	土 木 建 設 工 学 科	93 名	→ 113 名
	機 械 工 学 系 学 科 (機 械 工 学 科) (機 械 工 学 第 二 学 科)	104 名	→ 114 名
	工 業 化 学 科	53 名	→ 63 名
	化 学 工 学 科	52 名	→ 57 名
	電 気 ・ 情 報 工 学 科	93 名	→ 113 名
	生 産 精 密 工 学 科	40 名	→ 45 名
	計	435 名	→ 505 名
合 計		530 名	→ 620 名

(注) 1. 工学部の募集人員には、工業教員養成課程の人員が次のとおり含ま

れている。

土木建設工学科 3 名、機械工学系学科 4 名、工業化学科 3 名、
化学工学科 2 名、電気・情報工学科 3 名

2. 文学部、教育学部、法学部、経済学部、医学部及び薬学部の各学部
は、募集人員の変更はしない。

2. 選 抜 方 法 等

変更後の募集人員についての入学者選抜方法等は、すでに発表した「昭和61年度
金沢大学学生募集要項」のとおり行う。

追加学生募集要項 (工学部工業化学科・化学工学科)

工学部では、昭和61年度から工業化学科及び化学工学科を「物質化学工学科」に
統合・改組する計画がある。

この計画については、関係法令の制定及び予算の成立との関連から未定であるが、
入学者の選抜については、下記のとおり既設の工業化学科及び化学工学科の入学者選
抜に含めて実施するので注意されたい。

記

1. 募 集 人 員 等

既 設 の 学 部 ・ 学 科			新 設 予 定 の 学 部 ・ 学 科		
学 部	学 科	募集人員	学 部	学 科	入学定員
工学部	工 業 化 学 科	63名	工学部	物質化学工学科	115名
	化 学 工 学 科	57名			

- (注) 1. 既設の学部・学科の募集人員には、募集人員の変更予定による工業化
学科 10 名、化学工学科 5 名並びに工業教員養成課程の人員として工業
化学科 3 名、化学工学科 2 名がそれぞれ含まれている。
2. 計画中の物質化学工学科の入学定員には、工業教員養成課程の人員と
しての 5 名は含まれていない。

2. 入 学 者 選 抜

- (1) 工業化学科及び化学工学科の物質化学工学科への改組は、関係法令の制定及
び予算の成立によってはじめて確定するものであるが、この結果によって生ず
る入学者選抜は、改めて行わない。したがって、新設予定の物質化学工学科の
入学者選抜は、新設が確定するまで既設の工業化学科及び化学工学科の入学者
選抜として行う。
- (2) 出願書類は、既設の工業化学科又は化学工学科を志望するものとして受け付
けるが、改組が確定した場合は、それぞれ物質化学工学科を志望したものとし
ます。
- (3) 合格者の発表は、既設の工業化学科又は化学工学科の合格者として行い、改
組が確定した場合は、それぞれ物質化学工学科に入学することとなる旨を併せ
て発表する。
- (4) 万一関係法令の制定及び予算の成立がない場合は、志望した既設の工業化学
科又は化学工学科の学生として措置する。

3. そ の 他

ここに記載された事項以外の学生募集に関する事項は、すでに発表した「昭和61
年度学生募集要項・金沢大学案内」のとおりである。

本 件 照 会 先

金沢大学学生部入学主幹付入学試験係
〒920 金沢市丸の内1番1号
電 話 (0762) 62-4281
(内 線) 290